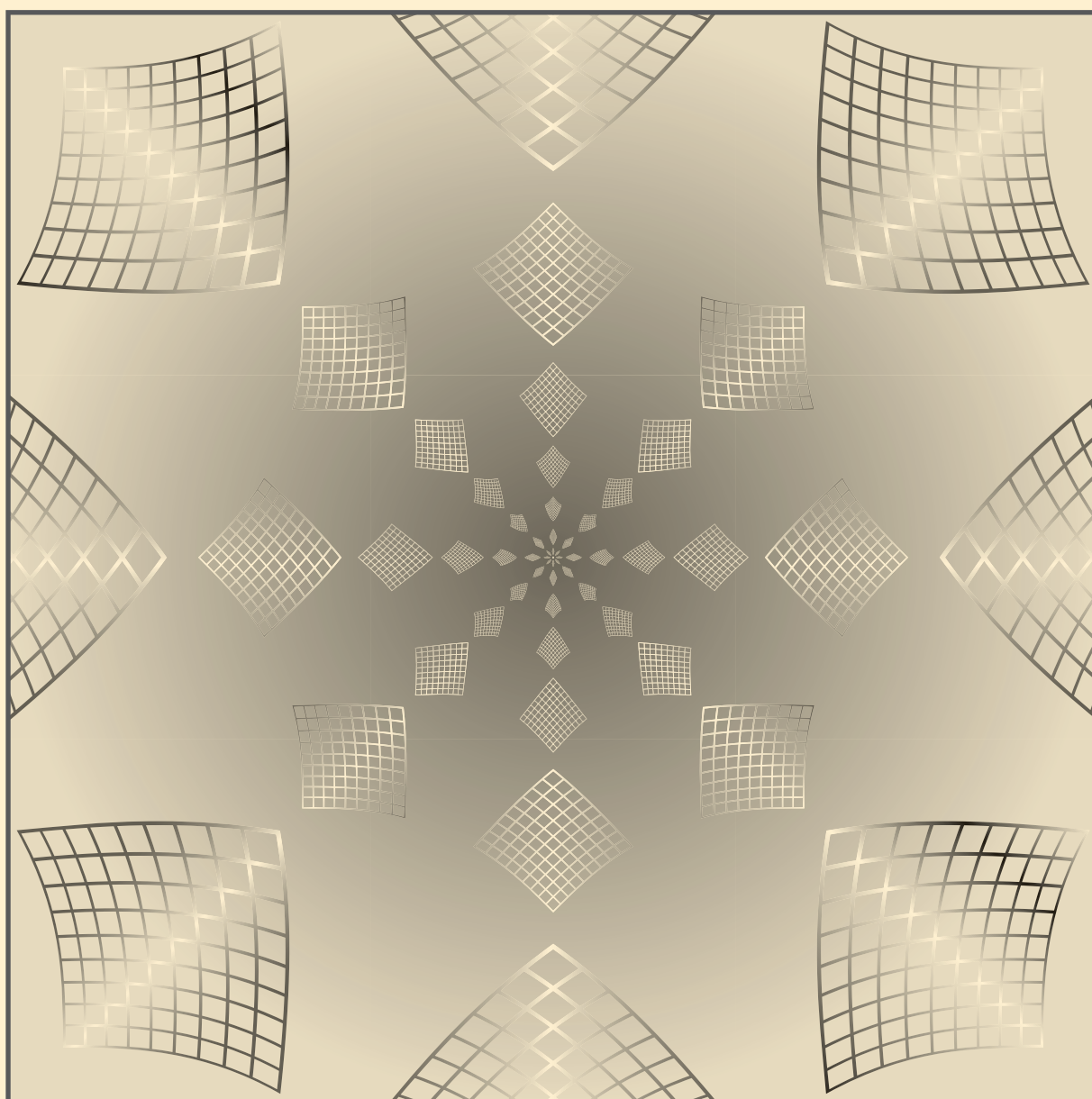

2011年度

シラバス 免許課程



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

科目の授業内容は、目次で検索してください。目次は対象者別（入学年度により異なる）の、カリキュラム順に掲載されています。

曜日時限も記載されていますが、変更等があるので受講の際は、教務課で確認をしてください。

（ホームページでも確認することができます。）

履修開始学年は、目次の「学年」欄に、「学期」は（ ）内に記載されています。

※目次の「備考」の表記

外：外国語学部学生

国教：国際教養学部学生

経：経済学部学生

法：法学部学生

（交文：交流文化学科学学生）

（総政：総合政策学科学学生）

① 適用年度	② 科目名	③ 担当者
【春学期】	④ 講義目的 講義概要	⑤ 授業計画 第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回
	⑥ テキスト 参考文献	⑦ 評価方法

*** 上段は、春学期科目です。**

- ①②入学年度により科目が異なります。
※該当科目がない場合は「***」で表示されます。
- ③ 担当教員氏名
- ④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。
- ⑤ 学期の授業計画についての欄です。各回ごとに講義するテーマが記載してあります。授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。
- ⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。
- ⑦ 半期完結科目は春学期終了時におよび秋学期終了時に成績評価が出ます。

① 適用年度	② 科目名	③ 担当者
【秋学期】	④ 講義目的 講義概要	⑤ 授業計画 第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回
	⑥ テキスト 参考文献	⑦ 評価方法

*** 下段は、秋学期科目です。**

各項目については、春学期と同一です。

※免許の履修に際しては、「履修の手引き」（免許課程のページ）および「2011年度 授業時間割表」を参照してください。

目次

【教職課程】 -- 教職に関する科目 --

科目名	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
教職論	春	木	1	川村 肇	2	1(1)	国教は自学科 科目名で登録	1
	春	金	5					
	春	月	4	桑原 憲一			春・金・5時限は 国教のみ履修不可	2
教育原論	秋	月	5	川村 肇	2	1(1)	国教は自学科 科目名で登録	3
	秋	火	3					
	秋	木	1	小島 優生			春・木・4時限は 再履修者用	4
教職心理学／教育心理学※	春	木	4	白砂 佐和子	2	1(1)	国教は自学科 科目名で登録	5
	春	金	1					
	秋	金	1	田口 雅徳			※交文の該当科目	6
教育制度	秋	水	1	森川 正大	2	2(3)	国教は自学科 科目名で登録	7
	春	月	5	桑原 憲一				
	春	水	3	小島 優生				
教育課程論	秋	水	3	桑原 憲一	2	2(3)	国教は自学科 科目名で登録	8
	春	火	4					
	秋	火	5	安井 一郎			10	
ドイツ語科教科教育法Ⅰ	春	水	2	金井 満	2	3(5)		11
ドイツ語科教科教育法Ⅱ	秋	火	1					
英語科教科教育法Ⅰ	春	火	1	安間 一雄	2	2(3)	外は履修不可	12
英語科教科教育法Ⅱ	秋	火	3					
英語科教科教育法Ⅲ	春	火	5	臼井 芳子	2	3(5)		13
英語科教科教育法Ⅰ ／英語科教科教育法Ⅱ※	秋	火	5					
英語科教科教育法Ⅱ ／英語科教科教育法Ⅲ※	春	水	1	J. J. ダゲン	2	3(5)		14
英語科教科教育法Ⅰ ／英語科教科教育法Ⅱ※	秋	水	1					
英語科教科教育法Ⅱ ／英語科教科教育法Ⅲ※	春	月	5	浅岡 千利世	2	3(5)	国教・経・法 は履修不可	15
英語科教科教育法Ⅰ ／英語科教科教育法Ⅱ※	秋	月	5					
英語科教科教育法Ⅱ ／英語科教科教育法Ⅲ※	春	木	1	羽山 恵	2	3(5)	受講定員あり ※交文の該当科目	16
英語科教科教育法Ⅰ ／英語科教科教育法Ⅱ※	秋	木	1					
英語科教科教育法Ⅱ ／英語科教科教育法Ⅲ※	春	金	1	清水 由理子	2	3(5)		17
英語科教科教育法Ⅰ ／英語科教科教育法Ⅱ※	秋	金	1					
英語科教科教育法Ⅱ ／英語科教科教育法Ⅲ※	春	土	2	町田 喜義	2	2(3)	外・国教・経・法 は履修不可 (交文を除く)	18
英語科教科教育法Ⅰ [交文:該当科目]	秋	土	2					
フランス語科教科教育法Ⅰ	春	木	1	中村 公子	2	3(5)		19
フランス語科教科教育法Ⅱ	秋	木	1					
社会科教育法Ⅰ	春	月	1	秋本 弘章	2	2(3)		20
社会科教育法Ⅱ	秋	月	1					
社会科教育法Ⅲ	春	火	2					
地理・歴史科教育法Ⅰ	秋	火	2	鈴木 孝	2	3(5)		21
	春	火	2					
	秋	土	1	鈴木 孝	2	2(3)		22
	春	土	1					

科目名	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ	
地理・歴史科教育法Ⅱ	秋	木	1	秋本 弘章	2	3(5)		24	
地理・歴史科教育法Ⅲ	春	月	5	會田 康範	2	3(5)		25	
公民科教育法Ⅰ	春	金	4	小川 輝之	2	3(5)		26	
公民科教育法Ⅱ	秋	金	4		2	3(5)			
情報科教育法Ⅰ	春	火	1	秋本 弘章	2	3(5)		27	
情報科教育法Ⅱ	秋	火	1		2	3(5)			
教科教育法特論Ⅰ	春	月	4	安井 一郎	2	3(5)		28	
	春	木	2						
教科教育法特論Ⅱ	春	木	2	J. J. ダゲン	2	3(5)	国教は履修不可/ 2007～09入学の 経・法は履修不可	29	
	秋	木	2						
	春	水	3	安間 一雄	2	3(5)	外は履修不可/ 2006以前に入学の 経・法は履修不可	30	
道徳教育の研究	春	金	1	小島 優生	2	2(3)		31	
	秋	金	1						
特別活動／特別活動論※	春	月	3	安井 一郎				32	
	春	金	2	小川 輝之	2	2(3)	※交文・総政 の該当科目	33	
	春	金	3						
	秋	月	4	桑原 憲一				34	
教育方法学	春	月	2	町田 喜義	2	2(3)			35
秋	月	2							
生徒指導法	春	火	1	安井 一郎				36	
	春	水	3	小川 輝之	2	2(3)		37	
	秋	金	3						
学校カウンセリング	春	火	5	桑原 憲一				38	
	秋	木	4	鈴木 乙史	2	2(3)	国教は自学科 科目名で登録	39	
	春	水	2	瀧本 孝雄				40	
	春	水	1	森川 正大				41	
総合演習	春	月	1	秋本 弘章					42
総合演習	春	水	2	小島 優生	2	3(5)	受講定員あり	43	
	秋	水	2						
	秋	金	4	田口 雅徳				44	
	春	水	1	安井 一郎				45	
	秋	水	1	和田 智	2	3(5)		受講定員あり	46
	秋	金	2						
教育実習論Ⅰ(事前指導)	春	木	2	小島 優生	2	3(5)	受講定員あり	47	
	秋	木	2						
	秋	水	3	小川 輝之	2	3(5)		受講定員あり	48
	秋	金	2						
	秋	金	5	川村 肇				49	
	秋	火	1	安井 一郎				50	
教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	金	5	川村 肇	2	4(8)	受講定員あり	51	
	秋	火	4	桑原 憲一				52	
	春	木	2	小島 優生				53	
	秋	月	3	安井 一郎	2	4(8)		受講定員あり	54
	秋	水	2						
介護ボランティアの理論と実践	春	火	2	小川 孔美	2	2(3)		55	
	春	火	3						

科目名	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
教育実習Ⅰ	集中	-	-	-----	2	4(7)	◎	---
教育実習Ⅱ	集中	-	-	-----	2			---

◎2011年度教育実習予定者は、春学期の履修時に必ず登録すること。

目 次

【教職課程】 -- 教科に関する科目 --

科目名	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
日本史概説Ⅰ	春	月	4	會田 康範	2	1(1)	-----	56
日本史概説Ⅱ	秋	月	4		2	1(1)		
外国史概説Ⅰ	秋	金	5	兼田 信一郎 久慈 栄志	2	1(1)	-----	57
外国史概説Ⅱ	春	金	3		2	1(1)		
地理学概説Ⅰ	春	月	2	秋本 弘章	2	1(1)	-----	59
地理学概説Ⅱ	秋	月	2		2	1(1)		
地誌学概説Ⅰ	春	水	1		2	1(1)		
地誌学概説Ⅱ	秋	水	1		2	1(1)		
法律学概説Ⅰ	春	火	5	小川 佳子	2	2(3)	経・法は履修不可 "	61
法律学概説Ⅱ	秋	火	5		2	2(3)		
政治学概説Ⅰ	春	木	2	杉田 孝夫	2	2(3)	経・法は履修不可 "	62
政治学概説Ⅱ	秋	木	2		2	2(3)		
社会学概説Ⅰ	春	土	1	岡村 圭子	2	1(1)	国教は自学科科目名で登録 "	63
社会学概説Ⅱ	秋	土	1		2	1(1)		
哲学概説Ⅰ	春	火	5	河口 伸	2	2(3)	-----	64
哲学概説Ⅱ	秋	火	5		2	2(3)		
倫理学概説Ⅰ	春	金	3	川口 茂雄	2	1(1)	国教は自学科科目名で登録 "	65
倫理学概説Ⅱ	秋	金	3		2	1(1)		
宗教学概説Ⅰ	春	木	5	河口 伸	2	2(3)	-----	66
宗教学概説Ⅱ	秋	木	5		2	2(3)		
心理学概説Ⅰ	春	木	2	田口 雅徳	2	1(1)	国教は自学科科目名で登録 "	67
心理学概説Ⅱ	秋	木	2		2	2(3)		

目次

【司書課程】

科目名	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
生涯学習概論	秋	火	4	阪本 陽子	2	2(3)		68
図書館概論	春	木	4		2	2(3)		69
図書館経営論	秋	金	3	井上 靖代	2	2(3)		70
図書館サービス論	春	金	2		2	2(3)		71
情報サービス論a	春	月	3	福田 求	2	3(5)	受講定員あり	71
	春	月	4					
情報サービス論b	秋	金	1	井上 靖代	2	3(5)	〃	72
	秋	金	2					
情報検索演習	春	火	3	福田 求	2	3(5)	〃	73
	春	火	4					
	秋	月	1	堀江 郁美				74
図書館資料論	春	金	1	井上 靖代	2	2(3)		75
専門資料論	春	金	5		2	2(3)		76
資料組織概説	春	金	4	松下 鈞	2	3(5)		77
資料組織演習	秋	金	4		2	3(5)	受講定員あり	77
	秋	金	5					
児童サービス論	秋	木	4	井上 靖代	2	2(3)		78
図書及び図書館史	春	金	3		2	2(3)		79
資料特論	秋	木	2	山家 篤夫	2	3(5)		80
コミュニケーション論	秋	土	3	町田 喜義	2	2(3)		81
図書館特論	春	木	2	山家 篤夫	2	3(5)		82

【司書教諭課程】

科目名	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
学校経営と学校図書館	春	木	1		2	2(3)		83
学校図書館メディアの構成	秋	木	3	井上 靖代	2	2(3)		84
学習指導と学校図書館	秋	木	1		2	2(3)		84
読書と豊かな人間性	春	木	3		2	2(3)		85
情報メディアの活用	秋	火	3	福田 求	2	2(3)	受講定員あり	85
	秋	火	4					

*** お 知 ら せ ***

教職・司書相談室について

獨協大学では教職、司書、司書教諭課程履修者を強力にサポートするため、中央棟1階に教職・司書相談室を開設しています。

ここには教職、司書、司書教諭課程に関する資料や教科書・参考書が用意されています。これらは開室時間内は自由に閲覧できます。

また、同課程履修者を主たる対象に、専門家である教員が個別面談に応じています。

教員という仕事、気になる教育実習や教員採用試験、図書館で働くにはどうすれば良いか、など気になることを質問できます。

もちろん、教職、司書、司書教諭課程を登録・履修するか迷っている学生も質問可能です。

学科・学年を問わず広く開放されているので、適宜利用してください。

なお、履修登録の方法や成績通知、教育実習の前提条件などの履修に関する質問は、東棟1階教務課 免許課程係に尋ねてください。

・場 所：中央棟1階

・開室時間：月～金曜日 9:00～17:00、土曜日 9:00～12:00

〔個別面談時間〕

	曜 日	時 間	担当者
教 職	月 曜	11:30～13:00	浅岡 千利世
	火 曜	—	—
	水 曜	11:30～13:00	小川 輝之
	木 曜	11:30～13:00	秋本 弘章
	金 曜	11:30～13:00	小島 優生
	土 曜	—	—
司書・司書教諭	火 曜	11:30～13:00	福田 求

*** ** **

【このページは白紙です。メモ欄に活用してください。】

03年度以降	教職論	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 教職課程で学ぶ諸科目の入門として、教職の意義と教職に就く心構えを学び、さまざまな角度から教育に対する見方を鍛えることを目標とします。</p> <p>【概要】 1. 「学級崩壊」「いじめ」「体罰」など、現代教育の抱えている諸問題を取り上げて、実態をビデオ等により確認し、参加者で討議します。こうした問題への教師の取り組みを考えるを通して、教職の意義及び教員の役割および教員の職務内容を学びます。 2. 進路選択に資する各種の機会の提供を行いません。 3. 諸問題が教育や社会に投げかけている問題を認識し、教職の役割を明確にすることで、今後の学習につなげていく道筋を理解していきます。特に体罰については、その問題点をきちんと理解することを求めます。</p> <p>【要望】 ・ビデオを見たり、グループ討議を取り入れるので、遅刻や欠席は避けてください。討論がどうしても嫌だという人はこの講義には向きません。 ・右の講義計画は、討論の進み具合等によって、変更することがあります。</p>		<p>第1回：講義の進め方の説明／本学で教職免許状が取得できる理由／教職の意義と役割 第2回：学級崩壊を考える（実態把握）／宿題：学級崩壊への対処について 第3回：学級崩壊を考える（グループ討論） 第4回：学級崩壊を考える（グループ討論のプレゼンテーション）／宿題：少年法改正について 第5回：ADHDを考える（実態把握）／宿題：ADHDから学ぶこと 第6回：体罰を考える（グループ討論） 第7回：体罰を考える（体罰に関する理論的問題） 第8回：体罰を考える（裁判例と実態把握） 第9回：いじめを考える（実態把握）／宿題：いじめへの対処について 第10～11回：いじめを考える（グループ討論・発表） 第12回：教員の職務内容（研修、サービス、身分保障）と職業選択の問題について 第13回：教師の専門職性を考える 第14回：様々な進路選択の問題を考える 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用せず、参考文献は講義の中で随時、紹介・配布する。高等学校の日本史の教科書や概説書が手元があれば参考になる。</p>		<p>試験とともに授業内容に応じて課す小レポートなどとともに、出席状況も含め総合的に評価する。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教職論	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 本講義は、教育職員免許法に規定された教職の意義等に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、教職の概要を理解するとともに、教職に必要な不可欠な基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。</p> <p>【概要】 本講義では、グループ討議や研究協議などを通して教職の意義、教員の身分や服務、職務の内容や必要とされる資質などについての主体的な理解を深めていく。教員が直面している諸課題についても取り上げ、教育に対する質の高い関心と教職に対する熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。</p>		<p>第1回：オリエンテーション 第2回：期待される教師像と目指す教師像 第3回：教員の資質・能力 第4回：教員養成と教員免許 第5回：教員の任用と教育委員会 第6回：教員の身分と服務 第7回：教員の職務(1) 教員の日・学校運営と校務分掌 第8回：教員の職務(2) 学習指導と生徒指導 第9回：教員の研修 第10回：教員の人事評価 第11回：教職の現代的課題(1) 少年非行問題 第12回：教職の現代的課題(2) いじめ問題 第13回：教職の現代的課題(3) 不登校問題 第14回：教職の現代的課題(4) 教職員事故 第15回：教育理念と教育信条</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義毎に配布する資料。参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点 (30%)、課題レポート (20%)、試験 (50%) により、出席3分の2以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

03 年度以降	教職論	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育原論	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養います。</p> <p>【概要】 1. 教育の思想と歴史の概略を基礎として、子どもの権利条約や教育基本法等を素材にし、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学びます。 2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていきます。</p>		<p>第1回：講義の進め方の説明 第2回：学力問題の国際比較（ドイツの事例） 第3回：習熟度別学級編成の問題 第4回：学力問題の国際比較（フィンランドの事例） 第5回：系統学習と問題解決学習について 第6回：「学力低下」と学力テストについて 第7～9回：戦後の教育の思想と歴史 第10回：「能力に応じた」教育を考える 第11回：教育における競争と自由の問題を考える 第12回：子どもの権利条約の精神 第13回：子どもに固有する権利と人権 第14回：子どもとはどういう存在か（系統発達と子どもの発見） 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ポケット版 子どもの権利ノート』（300円） 参考文献は、授業中適宜紹介します。授業資料は講義支援システムを利用して配布します。		授業内試験結果に、授業レポートシステムを利用したレポートや感想文を加味します。実施した場合には小テストの点数等も加味します。出席は6割以上、授業内試験の受験を必須とします。	

03年度以降	教育原論	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 教職課程履修者が最初に受講するものと想定している。したがって、教職課程の基礎理論編として、教育哲学、教育史、教育制度、教育法などの基礎を広く扱う。</p> <p>●講義概要 1回目のガイダンスでは、授業の進め方や評価方法、参考文献等を指示する。 2～4までは、日本の戦後教育の成り立ちとその理念について憲法・教育基本法体制を中心に扱う。 6～8までは、国家と教育とのかかわりについて、教科書検定や、学力テストの関係をj中心に検討する。 9～11までは、教育と経済の関係において、とくにキーとなる「能力主義」を中心に扱う。 12～14までは教育の自由や、公共性の問題を扱いながら、教育基本法の改正動向等についても検討する。</p> <p>※授業内容の変更もありうる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義についてのガイダンス 2. 戦後教育改革をどうとらえるか① 3. 戦後教育改革をどうとらえるか② 4. 戦後教育改革をどうとらえるか③ 5. 国家と教育① 6. 国家と教育② 7. 国家と教育③ 8. 小テスト&まとめ 9. 経済と教育① 10. 経済と教育② 11. 経済と教育③ 12. 教育の自由と公共性① 13. 教育の自由と公共性② 14. 教育の自由と公共性③ 15. 小テスト&まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		①授業への出席、発言などの貢献、②授業レポートシステムの提出・内容、③テスト等を総合的に評価する。評価方法等の詳細は一回目のガイダンスで指示する。	

03年度以降	教育原論	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 09年度以降	教職心理学 教育心理学 (交流文化学科学生)	担当者	白砂 佐和子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、教育現場で働くにあたって重要と思われる「人間関係能力」の理解を念頭におきつつ、教育現場で活かしていく教育心理学の習得を目的としたい。</p> <p>最初に、教育心理学のこれまでの知見を踏まえ、続いて人格の形成、発達上の課題、子どもたちにみられる不適応の諸相等ついて、現場と理論のつながりを考えながら講義していきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学について 2. 動機づけ理論 3. 人格の理解 (1) 4. 人格の理解 (2) 5. 学習心理学 6. 記憶・認知の心理学 7. 発達心理学序論・ライフサイクル 8. 乳幼児期の重要性 (1) 9. 乳幼児期の重要性 (2) 10. 子どもの心理臨床について 11. 発達上の課題 学童期前半 12. 発達上の課題 学童期後半 13. 発達上の課題 思春期 14. 発達上の課題 青年期以降 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし (適宜レジュメを用意する)		出席状況と期末試験の結果を合わせて評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 09年度以降	教職心理学 教育心理学 (交流文化学科学生)	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日、日本の教育環境は大きな転換点にさしかかっている。このように激変しつつある教育現場に携わるときに必要とされる心理学の基礎的知識について、本講義を通して理解を深めてほしい。</p> <p>教育心理学には大きく（１）測定・評価、（２）人格・適応、（３）発達、（４）学習という４つの領域がある。本講義ではまず教育心理学が成立した歴史的背景を述べた上で、これらの４領域の内容を詳しくみていくことにする。すなわち、１．教育心理学とはなにか、２．教育評価と学力問題、３．学習の過程と学習への動機付け、４．発達および発達障害などについて講義していく予定である。</p>		<p>授業計画</p> <p>第１回：教育心理学の領域とその歴史 第２回：教育測定と教育評価 第３回：教育評価の方法 第４回：教育評価と学力問題 第５回：学習の原理 第６回：学習における動機付け 第７回：学習意欲と原因帰属 第８回：学習意欲と目標理論 第９回：学習意欲と教師の役割 第１０回：発達と学習 第１１回：心理アセスメントと発達障害 第１２回：学習障害の理解 第１３回：AD/HD の理解 第１４回：自閉性障害の理解 第１５回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用しない。毎回レジュメを配布して授業をおこなう。また、必要な資料は授業において配布する。</p>		<p>授業時の小レポートおよび学期末の試験により総合的に評価をおこなう。</p>	

03年度以降 09年度以降	教職心理学 教育心理学 (交流文化学科学生)	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結授業のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 09年度以降	教職心理学 教育心理学（交流文化学科学生）	担当者	森川 正大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は、「こども」から「おとな」へと変化する存在であり、その過程は、家庭、学校、および社会による教育機能に支えられる。</p> <p>教育は、人間の「発達」および「学習」の過程にかかわるはたらきであるが、この科目は、学校教育の心理学的基礎として、乳幼児期から青年期までの心身の発達と学習の過程について学び、かつ、青年期の「こども」にかかわる教師の役割について理解を深めることを目標とする。また、学習障害、発達障害、その他、障害のある「こども」の心身の発達および学習の過程についてもとり上げる。</p> <p>講義のほか、自己理解、他者理解を深めるための簡単なワークを取り入れ、生徒とのリレーション、教師のあり方についても考える機会としたい。</p>		<p>第1回：この授業の目標と進め方</p> <p>第2回：学校・生徒の現状と学校教育の課題</p> <p>第3回：教育心理学の課題</p> <p>第4回：人間の成長と発達の原理</p> <p>第5回：発達段階と発達課題</p> <p>第6回：児童期までの発達</p> <p>第7回：青年期の発達</p> <p>第8回：社会性・道徳性の発達</p> <p>第9回：学習の原理</p> <p>第10回：内発的動機づけと学習意欲</p> <p>第11回：個人差と教育 ／障害のある生徒と教育の課題</p> <p>第12回：アイデンティティの形成</p> <p>第13回：教育測定と評価</p> <p>第14回：教師の自己点検</p> <p>第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。プリントによる。 参考文献は必要に応じて示す。</p>		<p>出席状況、授業中に課す提出物（「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など）、期末レポートを総合して評価する。 試験は行わない。</p>	

03年度以降	教育制度	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 本講義は、教育職員免許法に規定された教育の基礎理論に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、日本の教育制度の意義や構造の概要を理解するとともに、生涯学習社会における学校教育、家庭教育、社会教育の関係性にも触れながら教育制度全般に対する基礎的・基本的な識見をはぐくむことを目的とする。</p> <p>【概要】 本講義では、グループ討議や全体討議などを通して、日本の教育制度の意義や構造、教育改革の現状と課題などについて主体的な理解を深めていく。教育行政、学校・家庭・社会教育との関連や諸外国の教育制度にも触れながら教育に対する質の高い関心と熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。</p>		<p>第1回：オリエンテーション 第2回：教育の制度化 第3回：学校教育制度の概要 第4回：学校教育制度の変遷 第5回：公教育と私教育 第6回：教育行財政 第7回：教育委員会制度 第8回：教育課程と学習指導要領 第9回：諸外国の教育制度 第10回：家庭教育の現状と課題 第11回：社会教育の現状と課題 第12回：教育改革の現状と課題(1) 学校評価・人事評価制度 第13回：教育改革の現状と課題(2) 学校選択制・小中高一貫教育 第14回：教育改革の現状と課題(3) 学校評議員・学校運営協議会 第15回：教育改革の現状と課題(4) 初任者研修・教員免許更新制度</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義毎に配布する資料。参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点(30%)、課題レポート(20%)、試験(50%)により、出席3分の2以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育制度	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 教育に関わる法制度の理論と仕組みを理解した上で、新しい動向を検討することを目的としている。</p> <p>●講義概要 2, 3は他の行政分野とは異なる仕組み、教育委員会を中心にその仕組みと、準公選制度を実施した中野区の事例を検討する。 4, 5は学校運営の仕組みを概観した後、世界的動向ともいえる「自律的学校経営」について、日本の学校評議員や韓国の学校運営委員会制度などとも比較しながら検討する。 7, 8では教育行政の主な役割とされる教育条件整備について学級定員、および例外事項としての教員給与を扱う。 9, 10では教員養成の仕組みについて、戦後の教員養成制度の特徴および最近の動向、そして日本が範としたフィンランドの教員養成を検討する。 11, 12, 13では教科書編成を中心とした仕組みを検討し、独自の副読本づくりを行った犬山市の事例を検討する。 また、随時用語説明を中心とした小テストを実施し、理解と定着を図りたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（講義の目的、進め方についての説明など） 2. 教育行政を動かす組織—教育委員会制度 3. 教育委員会制度（中野区・韓国？） 4. 学校運営の仕組み 5. 学校運営の新しい動向（韓国の学校運営委員会） 6. 小テスト 7. 条件整備行政の仕組み 8. 条件整備行政の新しい動向（少人数学級） 9. 教員の養成・採用・研修・身分の仕組み 10. 教員政策の新しい動向（社会人の登用） 11. 教員政策の新しい動向（教員評価） 12. 教育課程行政と教科書の仕組み 13. 教育課程行政と教科書の新しい動向（犬山市） 14. 小テスト 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		①授業への出席、発言などの貢献、②授業レポートシステムの提出・内容、③テスト等を総合的に評価する。評価方法等の詳細は一回目のガイダンスで指示する。	

03 年度以降	教育制度	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育課程論	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の目標や内容、授業時数などを総合的に組織した学校の教育計画である。この教育課程は、校長を中心として全教職員の参画の下に、学校が主体性を持って編成していかななければならない。したがって、教職に携わる者は、教育課程に関する基礎的・基本的な事項を修得しておかなければその使命と責務を果たすことはできない。</p> <p>本講義では、平成20年に改訂された学習指導要領を踏まえ、教育課程の概念や意義、教育課程編成の一般方針、指導計画の作成、編成の手順と評価等について研究を深めつつ実践能力をはぐくむことを目的とする。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 教育課程の概念と意義</p> <p>第3回 教育課程の基準と編成主体及び原則</p> <p>第4回 教育課程編成の基本方針</p> <p>第5回 各教科等の授業時数等</p> <p>第6回 学習指導要領の意義と法的根拠</p> <p>第7回 学習指導要領の内容</p> <p>第8回 各教科等の指導内容</p> <p>第9回 教育課程実施上の配慮事項</p> <p>第10回 教育課程編成の手順と指導計画の作成</p> <p>第11回 演習1 週日課の作成</p> <p>第12回 演習2 週日課の作成</p> <p>第13回 演習3 時間割の作成</p> <p>第14回 演習4 時間割の作成</p> <p>第15回 教育課程の評価と改善</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>『中・高等学校学習指導要領解説・総則編』 講義毎に配布する資料 参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。</p>		<p>平常点 (30%)、課題レポート (20%)、試験 (50%) により、出席3分の2以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。</p>	

03 年度以降	教育課程論	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育課程論	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程と学力問題 2. 教育課程とは何か 3. 日本の教育課程(1) 4. 日本の教育課程(2) 5. 教育課程編成の理論と方法(1) 6. 教育課程編成の理論と方法(2) 7. 教育課程編成の理論と方法(3) 8. 学習指導要領と教育課程(1) 9. 学習指導要領と教育課程(2) 10. 学習指導要領と教育課程(3) 11. 学習指導要領と教育課程(4) 12. 新学習指導要領の検討 (1) 13. 新学習指導要領の検討 (2) 14. 教育課程と評価 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席(7割以上、厳守のこと)、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	ドイツ語科教科教育法Ⅰ	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語科教育法Ⅰにおいては、ドイツ語の基礎知識の確認と補強、および外国語教授法の知識と教案の作成などの実務的な技能の獲得を目標とする。</p> <p>基礎知識に関しては、学科基礎科目において習得してきた文法に関する知識のみならず、ドイツ語の授業を行うのに必要だと思われるドイツ語に関わる一般的な知識をも含めて確認・補強をする。外国語教授法に関しては、代表的な教授法に関して受講者に調査・報告をしてもらい、その長所・短所を議論する。また教案や試験問題なども実際に作成してみたい。</p> <p>なお英語の免許取得を目指している場合でも、免許科目という特性上、特に配慮はしないので、ドイツ語の免許を取得するというしっかりした自覚を持って受講してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ドイツ語基礎知識の確認 3. ドイツ語基礎知識の確認 4. ドイツ語基礎知識の確認 5. ドイツ語基礎知識の確認 6. ドイツ語基礎知識の確認 7. 外国語教授法について 8. 外国語教授法について 9. 外国語教授法について 10. 外国語教授法について 11. 外国語教授法について 12. 外国語教授法について 13. 外国語教授法について 14. 外国語教授法について 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
吉島茂・境一三著『ドイツ語教授法』三修社 2003 年		<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ語文法と教授法の基礎知識に関しては、授業内の筆記試験。 2. 教授法に関する発表。 3. 授業への参加度。特に出席。 	

03年度以降	ドイツ語科教科教育法Ⅱ	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語科教育法Ⅱにおいては、複数回の模擬授業を通じて、ドイツ語を教えるという経験の獲得を目指したい。模擬授業の際には担当者の授業をビデオ撮影し、担当者自らが自分の授業を振り返り、さらに参加者全員で講評し合うことができるようにする。</p> <p>なお英語の免許取得を目指している場合でも、免許科目という特性上、特に配慮はしないので、ドイツ語の免許を取得するというしっかりした自覚を持って受講してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 模擬授業 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験。 2. 模擬授業。 3. 授業への参加度。特に出席。 	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	英語科教科教育法 I	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的</p> <p>英語科指導に関わる教授法・学習理論・学習環境についてそれらの背景理論を習得することを目標とする。</p> <p>授業概要</p> <p>この授業では、まず学習者要因として第 2 言語発達の諸相を明らかにし、外国語学習への応用を検討する。次に教授法の歴史の変遷をたどりそれぞれの利点と欠点を明らかにする。さらに小学校での英語教育などの教育制度の課題や英語公用語化などの言語政策について是非を議論する。授業ではこれらの話題を概説したテキストを読み、そこで取り上げられている論文の内容を報告してもらい、教授法についての内容を知ることが共にアカデミックな論文・報告書を読めるようにすることが目標である。</p> <p>参考文献</p> <p>H. D. Brown, Principles of Language Learning and Teaching, 4th ed. (Pearson, 2000; ISBN 0130178160)</p> <p>D. Larsen-Freeman, Techniques and Principles in Language Teaching, 2nd ed. (Oxford University Press, 2000; ISBN 978-0194355742)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 1 言語習得過程：経験学習説，生得説 2. 第 2 言語習得過程：学習環境 (ESL/EFL)，年齢による習得差 3. 学習者の個別要因 (1)：知能，適性 4. 学習者の個別要因 (2)：学習スタイル，性格 5. 学習者の個別要因 (3)：動機付け・態度 6. 学習者の個別要因 (4)：アイデンティティ，学習観 7. 学習者の個別要因 (5)：年齢条件 8. 第 2 言語学習の様態 (1)：教授法による教師と学習者の関わりの相違 9. 第 2 言語学習の様態 (2)：誤りの訂正 10. 第 2 言語学習の様態 (3)：質問方法，民族誌的研究 11. 教授法の効果検証 (1)：オーディオリンガル法 12. 教授法の効果検証 (2)：ナチュラル・アプローチ，人間的アプローチ 13. 教授法の効果検証 (3)：コミュニケーション・アプローチ 14. 教授法の効果検証 (4)：イメージングプログラム 15. 教授法の効果検証 (5)：Focus on form 	
テキスト、参考文献		評価方法	
P. Lightbown & N. Spada, How Languages Are Learned, 3rd ed. (Oxford University Press, 2006; ISBN 978-0194422246)		定期試験および授業時の課題	

07年度以降	英語科教科教育法Ⅱ	担当者	白井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 今日の英語科教育で広く求められるコミュニケーション型な学習活動および評価方法を自ら創造し、英語で指導できる技術を獲得することを目標とする。</p> <p>授業概要： 英語授業の各技能および領域にコミュニケーション型な学習活動を取り入れるための様々な方法論を実践的に学ぶ。コミュニケーション型な教材・テストの作成方法を学ぶほか、教室内での課題学習活動を設計し、実践する。また、教室英語指導技能の訓練も同時に行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領 2. 英語教授法 3. コミュニケーション能力 4. テストと評価：種類と作成方法 5. 発音指導 6. 発音：模擬授業＋テスト作成 7. 文法指導 8. 文法：模擬授業＋テスト作成 9. 語彙・辞書指導 10. 語彙：模擬授業＋テスト作成 11. リスニング指導 12. リスニング：模擬授業＋テスト作成 13. スピーキング指導 14. スピーキング：模擬授業＋テスト作成 15. 総括 <p>*受講生の人数等により、授業計画は変更することもあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>JACET 教育問題研究会編『新英語科教育の基礎と実践』（三修社、2005；ISBN 978-4-384-04054-8） 村野井 仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』（大修館書店、2006；ISBN 4-469-24513-5）</p>		<p>授業時の課題 60% 定期試験 40%</p>	

07年度以降	英語科教科教育法Ⅲ	担当者	白井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英語科教科教育法Ⅱに引き続き、英語授業の各技能および領域にコミュニケーション型な学習活動を取り入れるための様々な方法論を実践的に学ぶ。</p> <p>授業概要： Ⅱで学んだものを応用し、特に技能統合型、内容重視型などの指導方法を実践的に学ぶ。指導案（評価含む）を作成し、それに基づいた模擬授業を実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 概論およびⅡの復習 2. リーディング指導 3. リーディング：模擬授業＋テスト作成 4. ライティング指導 5. ライティング：模擬授業＋テスト作成 6. フィードバック 7. 技能統合型指導 8. 技能統合型：模擬授業（1）＋テスト作成 9. 技能統合型：模擬授業（2）＋テスト作成 10. 技能統合型：模擬授業（3）＋テスト作成 11. 内容重視型指導 12. 内容重視型：模擬授業（1）＋テスト作成 13. 内容重視型：模擬授業（2）＋テスト作成 14. 内容重視型：模擬授業（3）＋テスト作成 15. 総括 <p>*受講生の人数等により、授業計画は変更することもあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>第一回目の講義で発表します。</p>		<p>授業時の課題 60% 定期試験 40%</p>	

03年度以降 09年度以降	英語科教科教育法Ⅰ 英語科教科教育法Ⅱ (交流文化学科学生)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to not just introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach), but also to establish a basis of understanding of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based, and upon which the student will be able to build and develop a coherent plan of instruction.</p> <p>We shall spend most of this term in reading, lecture, and discussion of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based. As class time is limited and valuable, students will be expected to keep up on the reading on their own time. Class time will be reserved for lecture and discussion.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p> <p>Note: Student selection for this class will be carried out during the guidance period at the beginning of the academic year.</p> <p><u>3月29日(火)4年生および3年生対象の各教職課程ガイダンスにおいて、「英語科教科教育法」登録申請用紙を配布します。その場で登録希望クラスを第4希望まで書き、提出することになりますので、必ず出席してください。</u></p>		<p>Week 1: Course description. Assignment.</p> <p>Week 2: Theme: The teaching situation. Lecture, discussion, assignment.</p> <p>Week 3: Theme: The role of the teacher. Lecture, discussion, assignment.</p> <p>Week 4: Theme: The role of the school. Lecture, discussion.</p> <p>Week 5: Theme: The role of the student. Lecture, discussion, project assignment.</p> <p>Week 6: Theme: Testing. Lecture, discussion, reading.</p> <p>Week 7: Theme: Testing. Lecture, discussion, assn.</p> <p>Week 8: Theme: How is language learned? Lecture, discussion, reading.</p> <p>Week 9: Theme: The history of language teaching. Lecture, discussion.</p> <p>Week 10: Theme: Approach and method--traditional. Lecture, discussion, handouts.</p> <p>Week 11: Theme: Approach and method--modern. Lecture, discussion.</p> <p>Week 12: Theme: Planning a lesson. Lecture, discussion.</p> <p>Week 13: Theme: Selected topics.</p> <p>Week 14: Theme: Selected topics.</p> <p>Week 15: Consolidation & Review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hubbard, P. et al., <i>A Training Course for TEFL</i> . (Oxford Univ. Press.) Handouts.		Grades are based on in-class participation, a number of assignments, and a final assessment based on the handouts and lecture.	

03年度以降 09年度以降	英語科教科教育法Ⅱ 英語科教科教育法Ⅲ (交流文化学科学生)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach) involved in teaching a successful language class, built on an understanding of the approaches, concepts, and reasoning on which foreign language education is based as presented in the first semester.</p> <p>This course will be devoted to student in-class practice teaching based on the material covered in the first semester, and incorporating practical teaching techniques that will be covered in reading and lecture.</p> <p>We will first look at materials and techniques used in teaching the various language skills, and then develop a lesson plan making use of said techniques.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p> <p>Note: Student selection for this class will be carried out during the guidance period at the beginning of the academic year.</p>		<p>Week 1: Course Introduction, Decide presentation schedule</p> <p>Week 2: Teaching Grammar--Lecture, Activities</p> <p>Week 3: Teaching Grammar--Video</p> <p>Week 4: Teaching Grammar--Student presentations</p> <p>Week 5: Teaching Reading--Lecture, Activities</p> <p>Week 6: Teaching Reading--Student presentations</p> <p>Week 7: Teaching Writing--Lecture, Activities</p> <p>Week 8: Teaching Writing--Student presentations</p> <p>Week 9: Teaching Listening--Lecture, Activities</p> <p>Week 10: Teaching Listening--Student presentations</p> <p>Week 11: Teaching Oral Communication--Lecture, Activities</p> <p>Week 12: Teaching Oral Communication--Student presentations</p> <p>Week 13: Selected activities.</p> <p>Week 14: Make-up presentations.</p> <p>Week 15: Consolidation & Review.</p> <p><u>3月29日(火)4年生および3年生対象の各教職課程ガイダンスにおいて、「英語科教科教育法」登録申請用紙を配布します。その場で登録希望クラスを第4希望まで書き、提出することになりますので、必ず出席してください。</u></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hubbard, P. et al., <i>A Training Course for TEFL</i> . (Oxford Univ. Press.) Handouts.		Grades are based on in-class participation, a number of assignments, a presentation, and a final paper.	

03年度以降 09年度以降	英語科教科教育法Ⅰ 英語科教科教育法Ⅱ (交流文化学科学生)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では中学・高校の英語教員を目指すも学生が知っておくべき外国語学習・教育に関する理論を幅広く取り上げる。また、学期を通して自分の英語教員としての専門性と成長について考え、振り返る場とする。授業はディスカッションやグループワークおよび英語を多用するので、積極的な参加が必要となります。</p> <p>授業の内容や情報は講義支援システムに随時アップしますので各自で必ず確認してください。</p> <p><u>3月29日(火)4年生および3年生対象の各教職課程ガイダンスにおいて、「英語科教科教育法」登録申請紙を配布します。その場で登録希望クラスを第4希望まで書き、提出することになりますので、必ず出席してください。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to course 2. Reflection on language learning and teaching 3. Theoretical approaches and methods 4. Syllabus and teaching guidelines 5. Textbooks 6. Classroom management 7-8 Lesson planning 9-10 Materials development 11. Testing and evaluation 12. Team teaching 13. Teaching younger learners 14. Teaching global issues 15. Reflection and wrap-up 	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムとハンドアウト使用		出席&授業への貢献度(30%)、ジャーナル(30%) 教案(20%) ポートフォリオ(10%) 自己評価(10%)	

03年度以降 09年度以降	英語科教科教育法Ⅱ 英語科教科教育法Ⅲ (交流文化学科学生)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では春学期に学習した理論をもとに模擬授業などの実践を中心に行う。全員複数回の模擬授業、教案作成と再作成、ビデオ録画と自己評価、チュートリアル、グループワーク、ポートフォリオ作成などを通して、自分の英語教員としての専門性と成長を振り返る。</p> <p>授業の内容や情報は講義支援システムに随時アップしますので各自で必ず確認してください。</p> <p><u>3月29日(火)4年生および3年生対象の各教職課程ガイダンスにおいて、「英語科教科教育法」登録申請紙を配布します。その場で登録希望クラスを第4希望まで書き、提出することになりますので、必ず出席してください。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Classroom language 3. Lesson planning 4. Individual presentations, Lesson planning 5. Individual presentations, Lesson planning 6. Micro teaching 1 (pair, one task) 7. Micro teaching 1 8. Micro teaching 1 9. Reflection 10. Micro teaching 2 (group, one lesson) 11. Micro teaching 2 12. Micro teaching 2 13. Micro teaching 2 14. Micro teaching 2 15. Reflection and wrap-up 	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムとハンドアウト使用		出席&授業への貢献度(30%)、reflective essays(20%) 模擬授業&教案(30%)、ポートフォリオ(10%)、自己評価(10%)	

03年度以降 09年度以降	英語科教科教育法Ⅰ 英語科教科教育法Ⅱ (交流文化学科学生)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 日本における英語教育の最新事情やさまざまな課題を知るとともに、それらを解決する方法を文献講読や受講者間のディスカッションを通じて探っていく。 また、中学・高校の英語授業において効果的であると考えられる指導法や評価方法を、文献や授業映像から学ぶとともに、受講生にはそれらをより良くする改善案を考えてもらう。具体的な指導法のテクニック等を知ること、本授業の目的の一つである。</p> <p>【概要】 授業においては、「知る」→「考える」→「共有する」という一連の流れを重視する。 配布するプリントや紹介する書籍・授業映像を通じて、どのような英語教授法があるのかを知り、その長短所や改善点について受講生自らが積極的に考えることを期待する。そして、新しく知った教授法・評価法を実践できるようになることが望ましい。ただし、よりスキルを重視した「練習」は秋学期に集中的に行う。</p> <p>※ 受講定員が設けられているので注意すること ※ 3月末のオリエンテーションに必ず参加すること</p>		<ol style="list-style-type: none"> 【ガイダンス】 日本における英語教育の歴史と現状課題 国際化と英語の役割 学習指導要領 早期英語教育 学習者要因 英語教員 英語教授法 (1) 英語教授法 (2) 第二言語習得研究 テスト (測定と評価) 教科書と教材研究 カリキュラムとシラバスデザイン 授業の組み立て方 【まとめ】 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 望月昭彦編著, 大修館書店		出席+授業活動への参加度+期末試験により評価する。 欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

03年度以降 09年度以降	英語科教科教育法Ⅱ 英語科教科教育法Ⅲ (交流文化学科学生)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 中学・高校における一時間の英語の授業を実践できる知識と技能を身につける。</p> <p>【概要】 受講生による模擬授業 (micro-teaching) を中心に進めていく。 与えられる「テーマ」に則り授業計画を立て、その一部を授業内で披露する。模擬授業は全員が学期内に実施すること、所定の形式に従った指導案を書けるようになることが課せられる。 各模擬授業に対しては、担当教員と受講生が感想やアドバイスを与える。</p> <p><u>3月29日(火)4年生および3年生対象の各教職課程ガイダンスにおいて、「英語科教科教育法」登録申請用紙を配布します。その場で登録希望クラスを第4希望まで書き、提出することになりますので、必ず出席してください。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 【ガイダンス】、ビデオ観賞 新出文法事項の導入方法 (1) 新出文法事項の導入方法 (2) 文法事項の定着練習 オーラル・イントロダクション 教科書本文の理解を促す活動 メディアの活用 さまざまなリスニング活動 総合力を反映させるライティング活動 段階的スピーキング活動 テスト作成 1時間の授業の組み立て (1) 1時間の授業の組み立て (2) 授業で使える英語ゲーム 【まとめ】 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。 欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

03年度以降 09年度以降	英語科教科教育法Ⅰ 英語科教科教育法Ⅱ (交流文化学科学生)	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] これまでの言語教育における理論と実践方法の変遷をたどり、どのような試みがなされてきたかを概観し、日本における英語教育の現状とこれからの英語教育の在り方を考える。</p> <p>[概要] 文法中心の考えからコミュニケーション能力育成を重視した授業形態が求められているなど、近年、英語教育現場にさまざまな変化が生じている。学習者として自分が受けてきた英語教育方法とは違う考え方ややり方を理解し、対応できるようになるにはどうしたらよいか考える。</p> <p>講義やビデオ教材などにより、語学教育に関する基本的な考え方や指導方法を紹介する。また、実際に教材を作るなど実践的な面も取り入れていく。</p> <p>3月29日(火)4年生および3年生対象の各教職課程ガイダンスにおいて、「英語科教科教育法」登録申請用紙を配布します。その場で登録希望クラスを第4希望まで書き、提出することになりますので、必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 授業の進め方、研究課題について 2. 日本における英語教育の変遷 3. 日本における英語教育の現状 4. Language Teaching Methodology (1) 5. Language Teaching Methodology (2) 6. Language Teaching Methodology (3) 7. Second Language Acquisition 8. Audio-Visual Aids 9. Audio-Visual Aids (教材作成) 10. Testing and Evaluation (1) 11. Testing and Evaluation (2) 12. Testing (教材作成) 13. 学習指導案作成 (1) 14. 学習指導案作成 (2) (教案作成) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは定めないが、参考文献を授業中に紹介する。 大学HP「授業」のWebページも参照のこと。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0076/index.htm</p>		<p>授業回数の半分以上、遅刻せず出席することが必要。 平常点 10% 教材研究課題レポート 40% 期末試験 50%</p>	

03年度以降 09年度以降	英語科教科教育法Ⅱ 英語科教科教育法Ⅲ (交流文化学科学生)	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] 春学期の講義と実践を基に、授業一回分の指導案(教案)を作成し、その一部分を模擬授業として実践する。</p> <p>[概要] 模擬実習では1回分の授業の一部分を他の受講者を生徒に見立てて行うが、授業の全体像をまずしっかり捉えて欲しいので、videoやDVD教材を用いて1回分の授業の流れの組み立て方を学ぶ。</p> <p>その後、中学校または高等学校向けの学習指導案の作成とそれに基づく模擬実習を行う。実習とそれについての討議が中心となる。学期中の模擬実習の全体の回数は、受講者数により変更することもある。</p> <p>模擬実習の開始までに、指導案を書き提出してもらう。コメントを付けて返却するので、それを基に実践してみる。その後再度検討し、最終版を作成する。</p> <p>また、学外の公開研究授業を見学し、そのレポートを提出してもらう。公開授業については、「英語教育」などの雑誌を見て欲しいが、適宜、授業時にも紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 春学期のレポートと答案返却、秋学期の課題について 2. 指導法研究 (1) 3. 指導法研究 (2) 4. 模擬実習 ① 5. 模擬実習 ② 6. 模擬実習 ③ 7. 模擬実習 ④ 8. 模擬実習 ⑤ 9. 模擬実習 ⑥ 10. 模擬実習 ⑦ 11. 模擬実習 ⑧ 12. 模擬実習 ⑨ 13. 模擬実習 ⑩ 14. 模擬実習 ⑪ 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは定めないが、必要に応じて参考文献を紹介する。</p>		<p>授業回数の半分以上、遅刻せず出席することが必要。 授業への参加度 10% 公開授業のレポート 30% 模擬授業 30% 期末レポート 30%</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	英語科教科教育法 I	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・講義目的：「コミュニケーション」と「教育」の関わりを理解する。 ・講義概要：教育はコミュニケーションの一形態である。今学期は上記の概念を理解し、その上で英語という外国語（第二言語ではない）を、どの様に連鎖させるかを解説する。 		第1回：講義概要説明 第2回：教育について 第3回：コミュニケーションについて 第4回：外国語学習と第二言語学習 第5回：英語と日本語 第6回：学外講師（中・高校教諭）の講義 第7回：統語論 第8回：意味論 第9回：語用論 第10回：授業設計① 第11回：授業設計② 第12回：視聴覚メディアと教育 第13回：測定と評価① 第14回：測定と評価② 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が作成した教材を使用する。参考文献リストを配付し、その都度、文献の解説をする。		出席点、レポート、定期試験で評価する。	

03 年度以降	フランス語科教科教育法 I	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 言語教育に携わっていく上で必要な基礎知識と教育実習に必要な事柄の習得。また日本におけるフランス語教育および言語教育の現状と「これから」について考える。</p> <p><講義概要> フランス語教育の歴史的変遷や教材、教室活動、教案の書き方、評価の仕方などを紹介する。主に講義形式となるが、教材分析や教案の作成などグループ作業や個人作業も取り入れる。講義内容をまとめたノートを各自作成すること。</p> <p><注意！> 必ず、教育実習を行う前年の3年次に履修すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに（教育実習予定、授業について、等） 2. コースデザイン、シラバスデザイン、カリキュラムデザイン 3. 教案の書き方 4. 言語教育における教授法の歴史的変遷 1 5. 言語教育における教授法の歴史的変遷 2 6. 教材分析 1 7. 教材分析 2 8. 教室活動と指導法 1 9. 教室活動と指導法 2 10. 教師の役割と教室空間の利用法 11. 教案と教室活動 1 12. 教案と教室活動 2 13. 授業実践のための準備とまとめ 14. 評価について 15. まとめ <p style="text-align: right;">（順不同）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各テーマに応じて授業中に指示する。		出席（無遅刻無欠席が原則）と授業参加態度。授業中の講義内容ノート、授業での発表、課題、レポート等での総合評価。	

03 年度以降	フランス語科教科教育法 II	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 教壇に立つための訓練を通して、教師の役割、授業準備や教室活動、授業の展開など、授業を行う時の注意点や問題点などについて考える。</p> <p><講義概要> 毎回、学生による模擬授業を行う。 「教案作成→授業準備→授業実施→評価と反省 →次回克服する課題を決める→個別指導」 上記のような流れになる。 10～25 分程度の模擬授業を各自数回行う予定。回数と持ち時間は受講者数によるので秋学期の最初の授業時に 模擬授業予定を決定する。</p> <p><注意！> 必ず、教育実習を行う前年の3年次に履修すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 模擬授業のための準備と注意点 2. 模擬授業 3. 模擬授業 4. 模擬授業 5. 模擬授業 6. 模擬授業 7. 模擬授業 8. 模擬授業 9. 模擬授業 10. 模擬授業 11. 模擬授業 12. 模擬授業 13. 模擬授業 14. 模擬授業 15. まとめ：教育実習に行くまでに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて授業中に指示する。		出席（無遅刻無欠席が原則）と授業参加態度。模擬授業の教案と準備、模擬授業、反省・感想文、事後指導態度、注意点のまとめ、レポート等での総合評価。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	社会科教育法 I	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。</p> <p>社会科教育法 I では、社会科の基本的性格を明らかにするとともに、学習指導要領に基づいて、教科の内容について基本的知識を身につける。また、今日社会科教育に課されている課題について考える。</p> <p>なお、科目の性質上、単なる講義ではなく受講者の発表等を取り入れながら授業を進めていく。</p> <p>* 中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会科教員の 1 日 2. 社会科成立の背景と意義 3. 社会科の教育課程とその変化 (1) 4. 社会科の教育課程とその変化 (2) 5. 社会科の教育課程とその変化 (3) 6. 社会科の教育内容 (1) 地理的分野 (1) 7. 社会科の教育内容 (2) 地理的分野 (2) 8. 社会科の教育内容 (3) 歴史的分野 (1) 9. 社会科の教育内容 (4) 歴史的分野 (2) 10. 社会科の教育内容 (5) 公民的分野 (1) 11. 社会科の教育内容 (6) 公民的分野 (2) 12. 社会科の今日的課題 (1) 環境 13. 社会科の今日的課題 (2) 国際化 14. 社会科の今日的課題 (3) 情報化 15. 社会科の今日的課題 (4) 人権と共生 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『中学校学習指導要領解説（平成 20 年 9 月）社会編』日本文教出版ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03 年度以降	社会科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。社会科教育法Ⅱでは、社会科の授業実践のための様々な技能を身につけることを目的とする。</p> <p>社会科で身につけるべき広い意味での学力（知識・技能・態度等）を踏まえて、授業形態別に実践のための知識と技能を具体的に学んでいく。また、情報通信機器等に活用や地域との連携についても考えていく。科目の性質上、授業時に課題等が多く課せられる。また、臨地学習については見学先等との都合により、日時をかえて行なう場合がある。</p> <p>* 中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会科の目標と身につけるべき力 2. 学習と評価 3. 講義式授業の特質 4. 教材の収集と利用（1）新聞・雑誌・書籍 5. 教材の収集と利用（2）視聴覚教材 6. 教材の収集と利用（3）インターネット等 7. 教材の収集と活用（4）ワークシートの作成 8. 生徒主体の学習指導法（1）調べ学習の指導 9. 生徒主体の学習指導法（2）ディベートと発表 10. シミュレーション教材の利用 11. 臨地学習の意義と計画 12.13. 臨地学習の実践 14. 学習指導計画と学習指導案（1） 15. 学習指導計画と学習指導案（2） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領解説（平成 20 年 9 月）社会編』日本文教出版ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03 年度以降	社会科教育法Ⅲ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。</p> <p>社会科教育法Ⅲでは、社会科の年間学習指導計画および学習指導案の書き方を学習した後、模擬授業を行い、社会科の教員としての望ましい知識と態度を身につける。</p> <p>* 中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校カリキュラムの中の社会科 2. 社会科各分野の特性、内容と年間学習指導計画 3. 地理的分野の内容構成 4. 歴史的分野の内容構成 5. 公民的分野の内容構成 6. 学習指導案の作成と模擬授業の準備 7. 学習指導案の作成と模擬授業の準備 8. 模擬授業（1） 9. 模擬授業（2） 10. 模擬授業（3） 11. 模擬授業（4） 12. 模擬授業（5） 13. 模擬授業（6） 14. 模擬授業（7） 15. 評価問題の検討と学習評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領解説（平成 20 年 9 月）社会編』日本文教出版ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	地理・歴史科教育法 I	担当者	鈴木 孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は世界史教育のあり方を具体的に提示する。平成 21 年 3 月に高等学校学習指導要領が告示され、その解説が同年 12 月に出されたこともあり、その視点を盛り込みながら、高等学校世界史を題材にした教科教育法としての講義となる。歴史学からのアプローチとして歴史認識の変遷を扱い、世界史教育に関わる教師としてのスキルアップを図る。授業実践論としては、授業を実際につくっていく際の教材研究のあり方を検討し、世界史 A および世界史 B の授業の留意点や新しい手法を提示する。</p> <p>評価（単位認定）の基本は出席率とする。免許課程の科目なので、専門的知識の獲得よりは、出席し、授業に前向きにとりくむことが優先される。テストは実施しないがレポートを課す。また、授業中に何度かワークを予定するのでその結果も成績に反映させる。</p>		01 歴史認識…その所在と変遷… 02 歴史教育における世界史必修化の意義 03 新学習指導要領による世界史教育 04 教材研究…その精神と方法… 05 世界史 A の概要と留意点 06 世界史 A の授業①…諸地域世界の特質… 07 世界史 A の授業②…ネットワーク論による交流… 08 世界史 A の授業③…近現代の世界と主題学習… 09 授業を工夫する I 10 世界史 B の概要と留意点 11 世界史 B の授業①…時間軸と空間軸… 12 世界史 B の授業②…歴史資料の読み解き… 13 授業を工夫する II 14 授業実践例と問題点の検討① 15 授業実践例と問題点の検討②	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>パワーポイントを用いて講義を行い、必要な資料は毎時間配布する。</p>		<p>免許課程の科目であるからには出席することが基本である。さらにレポートを課し、あわせて評価する。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	地理・歴史科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高等学校における地理教育の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、授業実践上基礎的な知識・技能の育成を目指す。</p> <p>本講義では、日本の地理教育史、各国の地理教育の現状を踏まえ、地理で身につけさせるべき見方・考え方・技能について実践的に考察する。</p> <p>* 高等学校「地理歴史科」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、次の文部科学省検定済教科書を購入し、自習しておくこと 『詳解地理 B』 二宮書店 『コンパクト地図帳』 二宮書店</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 地理教育の意義と目標 2. 日本の地理教育の歩み 3. 諸外国の地理教育 4. 現行および次期学習指導要領の特色 5. 地理的見方・考え方について 6. 地図・地球儀の扱い方（1） 7. 地図・地球儀の扱い方（2） 8. 野外観察・調査の意義と計画 9. 野外観察の実践 10. 系統地理の学習指導（1） 11. 系統地理の学習指導（2） 12. 地誌の学習指導（1） 13. 地誌の学習指導（2） 14. 主題的学習の学習指導（1） 15. 主題的学習の学習指導（2） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』 参考文献は授業中に示される。		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降	地理・歴史科教育法Ⅲ	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>歴史教育の「場」がどのように構成されてきたか、振り返ってみてほしい。その内容・教材構成・授業者と学習者、さまざまな要素とそれらの相互関係から成り立つ歴史教育（とりわけ日本史）のあり方を考察し討論することを通じて、教職を志す学生に授業を創造する力を養ってもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史を学ぶこと・教えること① 2. 歴史を学ぶこと・教えること② 3. 歴史研究と歴史教育① 4. 歴史研究と歴史教育② 5. 学習指導要領と教科書叙述① 6. 学習指導要領と教科書叙述② 7. 授業実践事例研究① 8. 授業実践事例研究② 9. 授業実践事例研究③ 10. 授業実践事例研究④ 11. 授業実践事例研究⑤ 12. 学習指導案の作成① 13. 学習指導案の作成② 14. 学習指導案の作成③ 15. まとめ <p>なお、上記の計画は受講者の人数や授業展開により変更されることもある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用せず、参考文献は講義の中で随時、紹介・配布する。高等学校の日本史の教科書や概説書が手元があれば参考になる。</p>		<p>試験とともに授業内容に応じて課す小レポートなどをもとに、出席状況も含め総合的に評価する。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	公民科教育法Ⅰ	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>社会科・公民教育の歴史的変遷を通して、公民科教育の意義・目的と課題について考察する。また、「高等学校学習指導要領解説公民編」を活用して、公民科の目標と科目編成、内容とその取り扱い、指導計画の作成と指導上の配慮事項について考察するとともに、具体的に公民科の授業づくりについて検討する。</p> <p>前半はテキストや配布プリント等を活用して講義中心の授業を行うが、公民科教育にかかわる今日的な話題や課題等については、討論会やディベート等を行う機会を持つことも考えている。授業実践演習Ⅰは主に視聴覚教材を活用して議論を進める。</p>		<p>1 社会科・公民教育の変遷 (1) 社会科の成立と公民科教育 (2) ～ (4) 社会科教育の変遷と公民教育 (5) 社会科教育の再編成と公民科の創設</p> <p>2 21年版「学習指導要領解説公民編」の研究 (6) 総説 (7) ～ (9) 各科目の目標・内容とその取り扱い・配慮事項 (10) 各科目にわたる内容の取り扱い</p> <p>3 授業実践演習Ⅰ (11) 学習指導案・評価問題の作成 (12) 指導技術の研究 (13) 指導内容と指導法の研究 ①教材研究の進め方 (14) ②学習活動と学習形態 (15) ③メディアの活用</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
文科省『高等学校学習指導要領解説公民編』教育出版		レポートまたは定期試験、授業研究シート、出席状況等で総合的に評価する。ただし、7割以上の出席者を評価の対象とする。	

03年度以降	公民科教育法Ⅱ	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育現場での先進的な授業実践に触れるとともに、公民科各科目の学習指導案に基づいた模擬授業を行い、公民科教育における実践的な指導力を養うことを目指している。</p> <p>公民科教育法Ⅱでは、公民科の授業における実践的な力量形成を図ることが目的なので、受講生の意欲的な授業参加、取り組みを期待する。</p> <p>なお、現職教員による示範授業を予定しているので公民科教育にかかわる現状や課題等についても積極的に発言し、自らの公民科の授業づくりに生かしてほしい。</p>		<p>1 授業実践演習Ⅱ (1) 模擬授業 ①～④模擬授業A班（「現代社会」） ⑤班別授業研究 ⑥～⑧模擬授業B班（「倫理」） ⑨班別授業研究 ⑩～⑬模擬授業C班（「政治・経済」） ⑭班別授業研究 (2) 実践事例研究 ⑮実践事例に見る公民科の指導</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
文科省『高等学校学習指導要領解説公民編』教育出版 参考書 魚山・小泉他編『社会科・公民科教育マニュアル』清水書院		レポート、学習指導案、模擬授業、評価問題、授業評価表、授業研究シート、出席状況等で総合的に評価する。ただし、7割以上の出席者を評価対象とする。	

03年度以降	情報科教育法Ⅰ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。</p> <p>情報科教育法Ⅰでは、情報科成立の背景から始めて、学習指導要領にもとづき情報科の内容を検討し、効果的な教育方法を考える。情報機器の利用方法を身につけると同時に学校におけるコンピュータ室の情報教室、学校全体の情報環境の整備・ネットワーク管理の基礎的な技能の育成も図る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 情報科成立の背景と意義 3. 普通教科「情報」の目的 4. 普通教科「情報」の科目構成と各科目の特色 5. 専門教科「情報」の目的 6. 専門教科「情報」の科目構成と内容の概略 7. 学校における情報教育の環境 8. 情報科教材研究（1）普通教科「情報」 9. 情報科教材研究（2）普通教科「情報」 10. 情報科教材研究（3）普通教科「情報」 11. 情報科教材研究（4）普通教科「情報」 12. 情報科教材研究（5）普通教科「情報」 13. 情報科教材研究（5）専門教科「情報」 14. 情報科教材研究（6）専門教科「情報」 15. 情報科教材研究（7）専門教科「情報」 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降	情報科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。</p> <p>情報科教育法Ⅱでは、年間学習指導計画・学習指導案の作成、先進校授業参観、模擬授業を予定している。</p> <p>なお、先進校授業参観については、参観先の都合により日時をかえて行なう場合がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 普通教科「情報」の特性と年間学習指導計画 2. 専門教科「情報」の各科目の配置と年間学習指導計画 3. 「情報」学習指導の実際（授業見学） 4. 「情報」学習指導の実際（授業見学） 5. 「情報」学習指導の実際（授業見学） 6. 学習指導案の作成 7. 学習指導案の作成 8. 学習指導案の作成 9. 模擬授業（1） 10. 模擬授業（2） 11. 模擬授業（3） 12. 模擬授業（4） 13. 模擬授業（5） 14. 模擬授業（6） 15. 情報教育のこれから 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03 年度以降	教科教育法特論 I	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講は、中学校における各教科の指導法に関する学習をさらに発展させるために、教科教育法の授業との関連を図りながら、中学校の教科教育に関する理解を広げ、教育課程及び各教科の指導法に関する学習を深めることを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>本講では、中学校教育の目的・目標、中学校の教育課程における教科教育の意義と役割、教科教育と教科外教育との関係、学力と評価、教科教育の今日的課題等を明らかにすることによって、教科教育に関する理解を深める。そのうえで、今日の教科教育の重要な課題である、各教科の関連づけを図った教科横断的な学習指導についての理解を深めるために、いくつかのグループに分かれ、総合的学習との関連を図った教科学習の学習指導案を作成する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな学力とは何か 2. 中学校教育の教育課程 3. 教科と総合的な学習 4. クロス・カリキュラムの作成(1) 5. クロス・カリキュラムの作成(2) 6. クロス・カリキュラムの作成(3) 7. クロス・カリキュラムの作成(4) 8. クロス・カリキュラムの作成(5) 9. クロス・カリキュラムの作成(6) 10. クロス・カリキュラムの作成(7) 11. クロス・カリキュラムの作成(8) 12. クロス・カリキュラムの作成(9) 13. クロス・カリキュラムの作成(10) 14. 作成した学習指導案の発表・検討(1) 15. 作成した学習指導案の発表・検討(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』</p> <p>『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席（7 割以上、厳守のこと）、グループ学習の活動内容、レポートによる総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教科教育法特論 II	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, we will be taking a different approach to teaching. Rather than simply study in dry textbooks about classroom teaching methods and techniques, we will be reading a book written by a teacher for teachers, a book detailing the teacher's teaching beliefs and experiences on teaching, teachers, and students.</p> <p>In addition, we will observe, through the use of video, three inspirational films detailing the teaching experiences of three teachers, their attitudes towards students and teaching, and the techniques they employed in the classroom to improve the learning of their students.</p> <p>By linking these two learning resources, it is hoped that the students in this class will gain a clearer and better understanding of what it means to be a teacher, of teaching, and of students.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Course introduction, pre-reading activities.</p> <p>Week 2: Reading activities, pre-viewing activities.</p> <p>Week 3: Video Ia, assignment</p> <p>Week 4: Video 1b, assignment</p> <p>Week 5: Post-viewing activities, pre-reading activities.</p> <p>Week 6: Reading activities, pre-viewing activities.</p> <p>Week 7: Video IIa, assignment</p> <p>Week 8: Video 1Ib, assignment</p> <p>Week 9: Post-viewing activities, pre-reading activities.</p> <p>Week 10: Reading activities, pre-viewing activities.</p> <p>Week 11: Video IIIa, assignment</p> <p>Week 12: Video 1IIb, assignment</p> <p>Week 13: Post-viewing activities.</p> <p>Week 14: Consolidation.</p> <p>Week 15: Review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts		Grades are based on in-class participation, assignments, quizzes, and a final assessment.	

03 年度以降	教科教育法特論 II	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

07年度以降	教科教育法特論Ⅱ	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的 英語科指導に必要な教員の英語運用力向上を目標とする。</p> <p>授業概要 教育現場での各技能および領域における指導項目を対象として、教師としての資質を高めるための訓練を行う。授業では実際の指導場面を想定し、モデル提示の後、ペアもしくはグループによる共同学習活動を行う。</p> <p>参考文献 松坂ヒロシ、『英語音声学入門』（研究社出版，1986；ISBN 4327375047） M. A. K. Halliday & R. Hasan, Cohesion in English (Longman, 1976; ISBN 978-0582550414)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語教師に求められる言語運用能力 2. 発音（文節音素 1, IPA） 3. 発音（文節音素 2, IPA） 4. 発音（超文節音素） 5. 語彙・形態素 6. 文法（修飾・統御） 7. 文法（文型 1） 8. 文法（文型 2） 9. 文法（文型 3） 10. 文法（時制・相・態・法 1） 11. 文法（時制・相・態・法 2） 12. 文法（時制・相・態・法 3） 13. 文法（指示・代用・省略） 14. 談話（構成） 15. 談話（ステラテジー） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
高橋作太郎、『英語教師の文法研究』（大修館書店，1983；ISBN 4469141526）		小テストおよび授業時の課題	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	道徳教育の研究	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 本講義は、①道徳に関する歴史、②昨今の教育改革における道徳の位置づけと大きくわけて2つの「理論編」の講義と、指導案を作成し、模擬授業を行う、という「実践編」の2つの柱で構成される。これらを通じて、道徳教育に関する実践力を身につけることを目的としている。</p> <p>●講義概要 上記のように前半における理論編では講義中心で行う。後半の指導案作成・模擬授業においてはグループをつくり、実際に自身で教材を探し、「道徳の時間」を構成する。 受講人数によるが、いくつかのグループは実際に模擬授業を行う予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義に関するガイダンス 2. ～高校における道徳教育必修化をどう考えるか 3. 道徳教育の歴史① 4. 道徳教育の歴史② 5. 道徳教育の歴史③ 6. 小テスト&指導案をつくる 7. 指導案の検討① 8. 指導案の検討② 9. ～15まで、模擬授業と振り返り 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		小テスト、レポート、指導案作成などを総合的に評価します。	

03年度以降	道徳教育の研究	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	道徳教育の研究	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講は、児童生徒の社会性やモラルの低下など、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、児童・生徒の人間形成においてきわめて重要な役割を果たす道徳教育の目的、内容、方法及びその今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>道徳教育は、人間形成の基礎にかかわるものであり、人間が社会の中で人間として生きていくために不可欠の内容を有している。本講では、道徳教育の意義と目的、学校教育における位置と役割についての基本的理解を得たうえで、道徳について考えるうえでの基本的な問いを「教育において『いのち』のもつ意味は何か」と捉え、その観点から、今日の道徳教育の現状を分析し、その特徴と問題点を明らかにし、一人ひとりの子どもの「生きる力」の育成に資する道徳教育とは何かについての検討を加える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の道徳教育体験を振り返る 2. 道徳とは何か(1) 3. 道徳とは何か(2) 4. 学校教育における道徳教育の位置と役割(1) 5. 学校教育における道徳教育の位置と役割(2) 6. 新教育課程における道徳教育の課題 7. 「いのち」の教育とは何か 8. 「いのち」を考える授業(1) 9. 「いのち」を考える授業(2) 10. 「いのち」を考える授業(3) 11. 学習指導案の作成(1) 12. 学習指導案の作成(2) 13. 模擬授業(1) 14. 模擬授業(2) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 道徳編』『心のノート 中学校』その他は、講義の中で紹介する。		出席（7割以上、厳守のこと）、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 08年度以降	特別活動 特別活動論（交流文化学科、総合政策学科学生）	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校教育における「特別活動」の意義や基本的性格、歴史の変遷等について考察するとともに、「中学校学習指導要領解説特別活動編」を中心に、「特別活動」の目標や内容、指導計画の作成と内容の取り扱い等について具体的に検討する。また、「特別活動」の内容に関する具体的な進め方や今日的な課題への対応等について検討し「特別活動」に関する実践的な指導力を養うことを目的とする。</p> <p>テキスト、配布プリント等を用いて講義中心の授業を行うが、実践演習の場面では研究班を編成してディベートやディスカッション、ロールプレイングなどを活用して、実践的な指導力を養う機会を持つ予定である。</p>		<p>1 特別活動の意義</p> <p>①学校教育と特別活動</p> <p>②特別活動の歴史の変遷</p> <p>2 20年版「中学校学習指導要領解説特別活動編」の研究</p> <p>③総説</p> <p>④特別活動の目標</p> <p>⑤特別活動の基本的な性格と教育的意義</p> <p>⑥～⑧各活動の目標と内容</p> <p>⑨～⑩指導計画の作成と内容の取り扱い</p> <p>3 特別活動の実践演習</p> <p>⑪～⑫学級（ホームルーム）活動と人間関係づくり</p> <p>⑬生徒会活動と自治・社会参加</p> <p>⑭学校行事と社会性の育成</p> <p>⑮教育課程と部活動</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文科省『中学校学習指導要領解説特別活動編』ぎょうせい</p> <p>参考文献 山口満編『新版特別活動と人間形成』学文社</p>		<p>学習指導案、実践演習課題、レポートまたは定期試験、出席状況等で総合的に評価する。ただし、7割以上の出席者を評価の対象とする。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 08年度以降	特別活動 特別活動論 (交流文化学科、総合政策学科学生)	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 本講義は、特別活動に関する基本的・基礎的な知識と特別活動の在り方や動向に関する知識を修得し、特別活動の特質や本質を踏まえた実践的指導力を育成することを目的とする。</p> <p>【講義概要】 特別活動の教育的意義や教育課程上の位置付け、目標と内容、指導計画の作成、指導方法などについて、講義と演習、模擬授業などを通して、現場実践に基づいて学ぶ。</p>		第1回：オリエンテーション 第2回：特別活動と教育課程 第3回：特別活動の内容と変遷 第4回：特別活動の意義と目標 第5回：特別活動と諸教育指導 第6回：生徒会活動の目標と内容 第7回：生徒会活動の指導計画 第8回：学級活動の目標と内容 第9回：学級活動の指導計画1 第10回：学級活動の指導計画2 第11回：学級活動の模擬授業 第12回：学校行事の目標と内容 第13回：学校行事の指導計画1 第14回：学校行事の指導計画2 第15回：学校行事の指導計画3	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：「実践的指導力をはぐくむ『特別活動指導法』」 (日本文教出版 渡部邦雄・緑川哲夫・桑原憲一編) 中・高学習指導要領解説 特別活動編		平常点 (20%)、指導案 (30%)、試験 (50%) により、出席3分の2以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

03年度以降	教育方法学	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>・講義目的 本講義は教育職の重要性を再検討し、学校教師の役割と機能を確認する。また、各自の教育方法に関する基礎を養成するものである。</p> <p>・講義概要 人間の一生は、日常の様々な直接経験、本、雑誌、TV、インターネットなどのメディアを利用した間接経験、そして言語による理性的・感性的経験を通しての成長過程である。言い換えれば、人間は成熟するまでに非常に長い年月を必要とし、その過程にあっては多くの他者との関わりあいが必要である。「蛙の子は蛙」という故事は、人間の成長過程とは異なるものを的確に言い表している。そこには、子どもは他者との様々な相互作用（異なった対応の仕方など）を通して、一人前の人間になっていくという考えがある。教育職は子どもの成長過程に「意図的」に参画する重要な媒介者である。</p>		<p>第1回：プロローグ：概要説明 第2回：コミュニケーションと教育・学習 第3回：教師の役割 第4回：授業を問いかける 第5回：視聴覚メディア 第6回：ビデオ教材による教育現場 第7回：校外専門家による授業 第8回：グループ討論 第9回：授業設計 第10回：測定とは？ 第11回：評価とは？ 第12回：教育方法のイメージ 第13回：ある高等学校の教育実践ビデオ 第14回：教材研究の意義 第15回：エピローグ：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>・テキスト：佐賀啓男編著（2010）『改訂 視聴覚メディアと教育』樹村房 ・参考書：伊藤功一(1992)『魂にうったえる授業』NHKブックス ・その他は開講時に別紙配付する。</p>		<p>・出席：15% ・個人レポート：15% ・グループレポート：40% ・定期試験：30%</p>	

03年度以降	教育方法学	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育方法学	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講は、今日の学校教育、とりわけ授業の構成と展開をめぐる問題状況を踏まえながら、教育方法の研究、実践に関する今日的な課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>毎日の授業をどのように工夫したらよいのか、子どもたちの個性を最大限に生かせるような指導とは何か等の問いに代表されるように、授業の内容とその方法に関する諸問題は、学校教育における最も重要な課題の一つである。本講では、教育方法学のうち、特に授業研究の問題に焦点をあて、授業研究を行ううえでの基本的な考え方はどのようなものであるのか、授業を成り立たせている構成要素は何か、授業を展開する具体的な方法とは何か等の問題について、各種資料やVTRによる授業記録などを用いながら多面的に検討を加え、授業研究に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の授業体験を振り返る 2. 授業とは何か 3. 教育実習生の授業 4. ベテラン教師の授業 5. 教材研究とは何か(1) 6. 教材研究とは何か(2) 7. 教材研究の事例の検討(1) 8. 教材研究の事例の検討(2) 9. 教材研究の事例の検討(3) 10. 教材研究とメディア 11. 新教育課程と授業 12. 林竹二の授業論から見た今日の授業研究の課題(1) 13. 林竹二の授業論から見た今日の授業研究の課題(2) 14. 林竹二の授業論から見た今日の授業研究の課題(3) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』</p> <p>『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席(7割以上、厳守のこと)、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	生徒指導法	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育機能の一つである生徒指導、教育相談、進路指導・キャリア教育などに関する基本的原理について学ぶ。また、生徒指導、進路指導上の今日的諸課題についての検討を通して、課題解決に向けての具体的な方策を考えるとともに、実践への心構えや指導の在り方等について学習する。</p> <p>配布プリント等を用いて講義中心の授業を行うが、講義内容によってはディベートやディスカッション、事例研究プレゼンテーションなど、さまざまな授業形態で生徒指導における実践的な指導力を養うことを目指す。</p>		<p>1 生徒指導の理論</p> <p>①生徒指導の意義と機能 ②生徒指導の歴史の変遷 ③教育課程と生徒指導 ④青年期と生徒理解 ⑤生徒指導の方法原理 ⑥生徒指導の進め方(集団指導と個別指導—教育相談) ⑦生徒指導と懲戒・体罰禁止 ⑧生徒指導体制の確立と家庭・地域・関係諸機関との連携</p> <p>2 生徒指導法に関する実践演習</p> <p>⑨規範意識の醸成と自律 ⑩社会性の育成とキャリア教育</p> <p>3 生徒指導上の諸問題に関する事例研究</p> <p>⑪飲酒・喫煙問題と生徒指導法 ⑫暴力問題と生徒指導法 ⑬いじめ問題と生徒指導法 ⑭性非行問題と生徒指導法 ⑮薬物乱用問題と生徒指導法</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考書 文科省『生徒指導提要』、『学校における教育相談の考え方・進め方』、『キャリア教育推進の手引き』</p>		<p>実践演習課題及び事例研究課題とプレゼンテーション、レポートまたは定期試験、出席状況等で総合的に評価する。ただし、7割以上の出席者を評価対象とする。</p>	

03年度以降	生徒指導法	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	生徒指導法	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 本講義は、今日、生徒が直面する様々な生徒指導上の課題に正対し、適切な指導・援助を行うことができるよう生徒指導の基礎・基本を修得するとともに、実践的な指導能力を育成することを目的とする。</p> <p>【概要】 本講義では、講義、グループ討議、演習を通して、具体的な実践課題に基づきながら生徒指導の意義・目的・組織・方法を中心に理解を深めていく。生徒指導は、生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、社会的な資質や能力・態度を育成するとともに、将来において社会的な自己実現を図ることができる資質や態度を形成するための指導・援助である。社会的な存在として、自ら人生の目標を選択、設定し、追求し、自己実現を図ろうとする資質や能力・態度を育成する実践的な生徒指導について学ぶ。</p>		<p>第1回：オリエンテーション 第2回：生徒指導の意義と目的・内容 第3回：生徒指導の全体指導計画 第4回：生徒指導組織と指導体制 第5回：生徒理解の基礎基本 第6回：教育相談の基礎基本 第7回：学業指導のあり方 第8回：適応指導のあり方 第9回：健康安全指導のあり方 第10回：進路指導・キャリア教育のあり方1 第11回：進路指導・キャリア教育のあり方2 第12回：課題解決学習1（基本的な生活習慣の確立） 第13回：課題解決学習2（非行・問題行動への対応） 第14回：課題解決学習3（不登校問題の解決） 第15回：課題解決学習4（学校危機管理への対応）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義毎に配布する資料。参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点（30%）、課題レポート（20%）、試験（50%）により、出席三分の二以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	学校カウンセリング	担当者	鈴木 乙史
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校場面で必要とされるガイダンスとカウンセリングの知識・技術を講義する。また学校という場の特徴を知り、そこでの教育相談全般および教職員相互の連携について、特に多く見られる諸問題、例えば、不登校・いじめ・集団不適応的行動などについて、個々の事例を分析・検討しながら、その効果的対処法を考える。カウンセリングの技術に関しては、適宜実習を行う。</p>		<p>第1回：オリエンテーション 第2回：学校カウンセリングとは 第3回：学校という場の特徴 第4回：学校における教育相談 第5回：教職員相互の連携について 第6回：カウンセリングとガイダンスの方法 第7回：カウンセリングの基礎と応用（1） 日常会話とカウンセリングでの会話 第8回：カウンセリングの基礎と応用（2） 応答の技法 第9回：カウンセリングの基礎と応用（3） 質問の技法 第10回：不登校の事例検討（1）小学生の事例 第11回：不登校の事例検討（2）中学生の事例 第12回：いじめの事例検討（1）孤立したケース 第13回：いじめの事例検討（2）グループ内で起きたケース 第14回：その他の学校不適応問題 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使わない。その都度、必要なプリントを配布する。</p>		<p>期末レポートおよび授業中に与える小課題や出席などから評価する。</p>	

03年度以降	学校カウンセリング	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>カウンセリング全般について、その理論と技法について学習する。</p> <p>まず、カウンセリングの定義、歴史、それぞれの理論の特徴と具体的な技法について学習する。特に、カウンセリングにおける傾聴の重要性を理解する。</p> <p>さらに、ロールプレイや心理テストを実施する。</p> <p>言語文化学科の専門科目であるが、全学科の2年生以上の学生は受講できる。</p> <p>出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. カウンセリングとは何か 3. カウンセラーの役割と資格 4. カウンセラーの世界（相談機関） 5. カウンセリングと心理療法 6. クライアント中心カウンセリング（1） 7. クライアント中心カウンセリング（2） 8. 精神分析的カウンセリング 9. 認知行動カウンセリング 10. 傾聴の理論 11. 傾聴の実習 12. ロールプレイの実習 13. 心理テストの実施 14. 講義のまとめ（1） 15. 講義のまとめ（2） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『カウンセリングへの招待』 瀧本孝雄著 サイエンス社		講義、グループ・ワークに関するレポートおよび出席状況による。実習をするので出欠を重視する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	学校カウンセリング	担当者	森川 正大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>不登校、無気力、いじめ、自殺、非行、暴力行為など、教育現場には生徒の心にかかわる問題が山積している。また、学級崩壊、教師の問題行動など、教師の資質や心のあり方が問われることも多い。</p> <p>この科目は、学校カウンセリングの基礎的知識と技法を身につけることにより、教科教育以外の教師の役割理解を深め、資質向上を図ることを目標とする。</p> <p>授業回数が限られているので、カウンセリングの理論学習は時間外の自習に期待し、教室においては、できるだけカウンセリングの技法や実際についての体験学習を取り入れて、カウンセリングを実感できるよう工夫したい。</p> <p>講義のほか、ロールプレーやVTR・テープ視聴等を併用する。</p>		<p>第1回：この授業の目標と進め方</p> <p>第2回：学校・生徒の現状とカウンセリングの必要性</p> <p>第3回：カウンセリングとは</p> <p>第4回：カウンセラーの役割、教師の役割</p> <p>第5回：生徒理解と援助のポイント(1)：「不登校」</p> <p>第6回：生徒理解と援助のポイント(2)：「いじめ」その他</p> <p>第7回：カウンセリングの実際(1)：紙上応答実習</p> <p>第8回：カウンセリングの実際(2)：良い面接と問題のある面接(テープを聞く)</p> <p>第9回：カウンセリングの理論と技法(1)：諸理論の人間観と治療目標・技法の比較</p> <p>第10回：カウンセリングの理論と技法(2)：諸理論に共通する基本的技法(傾聴、応答、反映、ほか)</p> <p>第11回：学校カウンセリングと心理テスト</p> <p>第12回：キャリアカウンセリングの基礎</p> <p>第13回：保護者への援助：コンサルテーション</p> <p>第14回：校内組織、校外機関の活用と連携</p> <p>第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。プリントによる。</p> <p>参考文献は必要に応じて示す。</p>		<p>出席状況、授業中に課す提出物(「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など)、期末レポートを総合して評価する。試験は行わない。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	総合演習	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講は、教師を志望する学生が、今日の小・中・高等学校の教育において求められている「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」を身に付けるために、現代社会に存在する諸問題に関する課題解決的な学習についての実践演習を行うことを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>本講では、中学校・高等学校における課題解決的な学習を想定し、生徒が日々の生活や学習で直面する現代的な課題（たとえば、環境、食と健康、国際理解、多文化共生、情報とコミュニケーション等）に関するグループ研究、グループ発表、相互評価を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合演習の意義とねらい、グループ分け 2. 各グループにおける学習テーマの設定(1) 3. 各グループにおける学習テーマの設定(2) 4. グループ研究(1) 5. グループ研究(2) 6. グループ研究(3) 7. グループ研究(4) 8. グループ研究(5) 9. グループ研究(6) 10. グループ研究(7) 11. グループ研究(8) 12. グループ研究(9) 13. グループ研究(10) 14. グループ研究(11) 15. グループ研究の評価と反省 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総合的な学習の時間編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総合的な学習の時間編』その他は、講義の中で紹介する。</p>		<p>出席（7割以上、厳守のこと）、レポートによる総合評価。 *春または秋に実施される「総合演習」体験学習に必ず参加すること。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	総合演習	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 基本的には、中学校で実施する「総合的な学習」を自身でプランニングし、実施することを目的としている。 周知の通り、総合的な学習の授業内容は学校や教師が計画することができる分、指導書や教科書がないため他の授業とはそのプランニングも異なる。 本講義では、急速なグローバル化の進展にともない、学校現場も「国際」や「異文化」と無関係ではいられなくなってきているという現状を踏まえ、「国際」や「異文化」に関する授業をプランニングし、実際に模擬授業を行うものである。</p> <p>●講義概要 2では、総合的な学習とは何かという位置づけや、先進事例をビデオを通して学ぶ。 3からはすべてグループワークとなるが、まず1年間の全体計画を作って発表し（中間発表）、その中の1つの授業を取り出して模擬授業を実施する。</p> <p>●諸注意 授業計画を見てわかるように、グループ作業が中心の内容となっている。欠席遅刻等は本人だけでなく、グループにとって不利益となることを承知しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（授業の進め方、自己紹介） 2. 総合的な学習とは何か 3. グループ・テーマ設定 4. グループ作業① 5. グループ作業② 6. グループ作業③ 7. 中間発表① 8. 中間発表② 9. グループ作業 10. 模擬授業① 11. 模擬授業② 12. 模擬授業③ 13. 模擬授業④ 14. 模擬授業を振りかえる 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		小テスト、レポート、指導案作成などを総合的に評価します。 *春または秋に実施される「総合演習」体験学習に必ず参加すること。	

03 年度以降	総合演習	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	総合演習	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講は、教師を志望する学生が、今日の小・中・高等学校の教育において求められている「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」を身に付けるために、現代社会に存在する諸問題に関する課題解決的な学習についての実践演習を行うことを目的とする。</p> <p>本講では、中学校・高等学校における課題解決的な学習を想定し、生徒が日々の生活や学習で直面する現代的な課題（たとえば、環境、食と健康、国際理解、多文化共生、情報とコミュニケーション等）に関するグループ研究、グループ発表、相互評価を行う。</p>		<p>第1回：総合演習の意義とねらい 第2回：学習テーマの設定(1) テーマ概要の決定 第3回：学習テーマの設定(2) テーマの絞り込み 第4回：グループ研究(1) 問題・目的の設定 第5回：グループ研究(2) 調査方法の検討 第6回：グループ研究(3) 文献収集 第7回：グループ研究(4) 問題・目的の再検討 第8回：グループ研究(5) 調査による資料収集 第9回：グループ研究(6) 資料の分析 第10回：グループ研究(7) 分析結果のまとめ 第11回：研究成果の発表(1) 第12回：研究成果の発表(2) 第13回：研究成果の発表(3) 第14回：グループ発表の相互評価 第15回：発表のふり返り</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。</p>		<p>出席、グループ学習の活動内容、レポートによる総合評価 *春または秋に実施される「総合演習」体験学習に必ず参加すること。</p>	

03年度以降	総合演習	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講は、教師を志望する学生が、今日の小・中・高等学校の教育において求められている「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」を身に付けるために、現代社会に存在する諸問題に関する課題解決的な学習についての実践演習を行うことを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>本講では、中学校・高等学校における課題解決的な学習を想定し、生徒が日々の生活や学習で直面する現代的な課題（たとえば、環境、食と健康、国際理解、多文化共生、情報とコミュニケーション等）に関するグループ研究、グループ発表、相互評価を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合演習の意義とねらい、グループ分け 2. 各グループにおける学習テーマの設定(1) 3. 各グループにおける学習テーマの設定(2) 4. グループ研究(1) 5. グループ研究(2) 6. グループ研究(3) 7. グループ研究(4) 8. グループ研究(5) 9. グループ研究(6) 10. グループ研究(7) 11. グループ研究(8) 12. グループ研究(9) 13. グループ研究(10) 14. グループ研究(11) 15. グループ研究の評価と反省 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総合的な学習の時間編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総合的な学習の時間編』その他は、講義の中で紹介する。</p>		<p>出席（7割以上、厳守のこと）、レポートによる総合評価。 *春または秋に実施される「総合演習」体験学習に必ず参加すること。</p>	

03年度以降	総合演習	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	総合演習	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の到達目標及びテーマ： 本講は、教師を志望する学生が、今日の小・中・高等学校の教育において求められている「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」を身に付けるために、現代社会に存在する諸問題に関する課題解決的な学習についての実践演習を行うことを目的とする。</p> <p>授業の概要： 本講では、中学校・高等学校における課題解決的な学習を想定し、生徒が日々の生活や学習で直面する現代的な課題（たとえば、環境、食と健康、国際理解、多文化共生、情報とコミュニケーション等）に関するグループ研究、グループ発表、相互評価を行う。</p> <p>授業では主にレクリエーションな活動を通して、良好な人間関係の構築とコミュニケーション能力の育成をテーマとする。</p> <p>特に獨協大学の総合演習の特徴として、春または秋に実施する合宿自然体験学習を実施する。学生に野外における小グループでの直接体験学習の機会を与え、学生の自然体験活動経験を増加させ、その過程で起こる人間関係を含む課題解決の場を提供し、現実に指導場面で起こりうる状況を解決する能力の育成に役立てることを目的にしている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 総合演習の意義とねらい 2 アイスブレイキングを目的とした活動 3 イニシアティブゲーム体験 4 リーダーシップについての討論 5 指導計画の立案の方法 6 グループによるゲーム指導計画の作成 7 ゲーム企画のプレゼンテーション 8 企画の実施（全グループによる指導体験） 9 相互評価とふりかえり 10 「90分企画コンテスト」に向けたグループワーク 11 指導計画の作成とプレゼンテーション準備 12 プレゼンテーション 13 選出グループによる企画の実施 14 評価とふりかえり 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じてプリントを配布		出席状況、授業レポート、期末レポート、グループ活動参加態度によって総合的に評価 *春または秋に実施される「総合演習」体験学習に必ず参加すること	

03年度以降	教育実習論 I (事前指導)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 教育実習に行く前の最後の授業であるので、主にこれまで教科指導法等で学んだ授業方法や、生徒指導を踏まえ、実習前の実践的なそうまとめることが目的である。</p> <p>●講義概要 1. ～3. までは、教育実習についてのビデオ等を視聴し、実習の概要をつかむ。また十種予定校について調べ、それを互いに発表することで様々な学校の概要や、その特徴にあった指導等を共有する。 4 では近隣の高等学校に実際に授業見学をさせてもらい、実際の授業や生徒の様子を把握する。 9～14では、指導案を作成し、模擬授業を行う。これによって、教案の書き方、授業準備の仕方、授業の進め方や注意点などを、再度きめ細かく学ぶ。また、他の人の授業に参加し、コメントを共有することで自身の模擬授業に反映させる。</p>		<p>1. ガイダンス・自己紹介等</p> <p>2. 教育実習の概要 (1) 生活指導編</p> <p>3. 教育実習の概要 (2) 学習指導編</p> <p>4 学校見学</p> <p>5. 学習指導案を作成する①</p> <p>6 学習指導案を作成する②</p> <p>7. 学習指導案を検討する</p> <p>8. ～14. 模擬授業</p> <p>15. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		①出席、発言などの授業への貢献、②指導案やレポートの提出などを評価する。	

03年度以降	教育実習論 I (事前指導)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論 I (事前指導)	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教職課程教育のまとめであり、最大の関門でもある「教育実習」について、その意義と目的、内容と実際について学ぶ。また、学校教育が抱えている今日的な課題や教育改革の動向などについて検討し、それを踏まえた指導の在り方を考察するなど、教育実習の事前指導としての役割が十分果たせるように工夫したい。</p> <p>教育課題検討会や場面指導及び授業実践演習など受講者中心の授業となるので積極的・主体的な授業参加を期待する。</p> <p>なお、授業の後半で現職の教員を迎えて実習生としての心構えや事前準備等について伺う機会を持つ予定である。</p>		<p>1 教育実習の意義 ①教育実習の意義と目標 ②教育実習の形態</p> <p>2 教育実習の内容 ③～④現代の教育課題 ⑤教育課程の編成と学習指導 ⑥道徳の時間、特別活動、総合的な学習の時間の指導 ⑦生徒指導と生徒理解 ⑧学校運営組織と校務分掌</p> <p>3 教育実習の実際 ⑨～⑩場面指導実践演習(学習・生徒・進路等) ⑪授業実践演習 A (道徳・学級活動) ⑫班別授業研究 A ⑬授業実践演習 B (社会科・英語科) ⑭班別授業研究 B ⑮まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『教育実習の指針』獨協大学		教育課題、実践演習課題、授業評価表、授業研究シート、レポート、出席状況等で総合的に評価する。ただし、7割以上の出席者を評価の対象とする。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論 I (事前指導)	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第一に、教育実習の意義（教職課程上の位置付け等）を講義し、教育実習の実際を、実習を終えた四年生から学びます。これを通じて、実習を迎える心構えと準備を確かなものにします。</p> <p>第二に、実習校種別にグループを作って、四年生（実習修了生）の援助の下に、模擬授業を行います。これによって、教案の書き方、授業準備の仕方、授業の進め方や注意点など実践的な技法を、きめ細かく学びます。</p>		<p>1～3回 教育実習の意義および実習の実際について</p> <p>4～6回 校種別実習計画づくり</p> <p>7～14回 校種別模擬授業実施</p> <p>15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『教育実習の指針』		出席と、作成した教案等を勘案して、期末レポートに加味します。出席は6割が必須です。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論 I (事前指導)	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講は、教育実習の意義や目的、その概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を行うことにより、教育実習に向けての準備を進めることを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>教育実習は、これまで大学の教職課程で学んできたことの成果を、実習校での学校運営に教育実習生として直接参加することによって、具体的に実証する機会である。本講では、教育実習の事前指導として、教育実習に参加することの意義や目的、実習期間中の学校生活の概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を体験することにより、実習における学習のポイントを明確にする。また、実習生としての心構え、実習期間中の留意点等についてもふれ、教育実習に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習とは何か 2. 教育実習の概要 3. 授業を見る(1) 4. 授業を見る(2) 5. 授業を見る(3) 6. 授業を見る(4) 7. 授業のスキル 8. 授業の評価 9. 学習指導案の作成(1) 10. 学習指導案の作成(2) 11. 模擬授業(1) 12. 模擬授業(2) 13. 模擬授業(3) 14. 模擬授業(4) 15. 教育実習期間中の諸注意 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席(8割以上、厳守のこと)、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第一に、実習校や実習の交流を行い、学校による違いや反省点を明確にします。</p> <p>第二に、これから実習を迎える三年生（実習前の四年生）を対象として、実習の実際を伝えていきます。</p> <p>第三に、三年生が行う校種別の模擬授業を指導し、教案の作成の仕方、授業準備の仕方等を教えます。また、実習に関する最新の注意を与えます。このことを通じて、自らの実習を詳しく振り返るとともに、指導の仕方や教え方そのものを学ぶことができます。</p>		<p>1～3 回 教育実習の意義および実習の実際について</p> <p>4～6 回 校種別実習計画づくり</p> <p>7～14 回 校種別模擬授業実施</p> <p>15 回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『教育実習の指針』		出席と、作成した教案等を勘案して、期末レポートに加味します。出席は6割が必須です。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 本講義は、教育実習の事後指導として教育実習の反省とフォローアップを行い、教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>【概要】 本講義では、教育実習の反省を通して、教育実習の体験に基づいた教職に対する各自の資質向上の課題を整理し、教師としての心得と職務、近年の教育改革の現状と学校が直面している諸問題についての理解を深めつつ、実践的指導力の形成を図る。</p>		第1回：教育実習体験の発表 第2回：実習課題レポートの作成 第3回：サービスの課題解決 第4回：生徒指導の課題解決 第5回：学級経営の課題解決 第6回：教科学習指の課題解決 第7回：補助教材や教育機器の課題解決 第8回：コミュニケーション能力の課題解決 第9回：授業評価の課題解決 第10回：学習指導案作成の課題解決 第11回：学習指導案の作成(1) 第12回：学習指導案の作成(2) 第13回：模擬授業1 第14回：模擬授業2 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
獨協大学「教育実習の指針」、文部科学省「中学校学習指導要領」・「中学校学習指導要領解説 総則編」参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点（50%）、レポート（50%）により、出席3分の2以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

03年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 この講義は、すでに教育実習を終えた学生を対象に、教育実習の振り返りをするを目的としている。</p> <p>自身の実習を総括し、これから教師として成長するために必要なことを検討し、そのための方法を考える。</p> <p>●講義内容 おもに1～3ではグループになり、①授業編、②生活指導編、③指導案その他で教育実習を振り返る。他校に行った学生の指導案や日誌を見ることで自身との共通点や差異を見つけ、ディスカッションする。5～6ではそれらのディスカッションを踏まえ、指導案を作成し、互いの授業の工夫などについても再度ディスカッションを行う。</p> <p>7～13にかけては、そこで作成した指導案について、模擬授業を実施し、検討する。</p>		<p>1. ガイダンス（自己紹介等）</p> <p>2. 実習の振り返り（生活指導）</p> <p>3. 実習の振り返り（指導案）</p> <p>4. 実習の振り返り（授業）</p> <p>5. 指導案を作成する</p> <p>6. 指導案を検討する</p> <p>7～14. 模擬授業</p> <p>15. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		小テスト、レポート、指導案作成などを総合的に評価します。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、教育実習の事後指導として、教育実習の反省・フォローアップを行い、教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>講義概要 本講では、教育実習の反省を行うとともに、教育実習の体験に基づいて、教職に向けての各自の学習課題を整理し、教師としての心得と職務、近年の教育改革の現状と学校が直面している諸問題についての理解を深めつつ、実践的指導力の形成を図ることによって、学校教育に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の体験の発表 2. 教育実習レポートの作成 3. 発問 4. 板書 5. 各種資料及び機器の活用 6. 生徒とのコミュニケーション 7. 授業評価 8. 近年の教育改革の現状と課題 9. 学習指導案の作成(1) 10. 学習指導案の作成(2) 11. 模擬授業(1) 12. 模擬授業(2) 13. 模擬授業(3) 14. 模擬授業(4) 15. 模擬授業(5) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』 『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席（8割以上、厳守のこと）、レポート、試験による総合評価	

03年度以降	介護ボランティアの理論と実践	担当者	小川 孔美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代において「介護」は、今まさに必要とする個人にとってだけでなく、現在健康である個人にとっても、その長い人生のなかで「介護」を必要とする時期、「介護」について考える時期がどこかにあるといてよい。「介護」の本質と理念、制度、対人援助の構造などの基礎概念をふまえたうえで、「介護」を必要とする個人のニーズについて理解を深め、さらに実際に生かすことのできる具体的な援助方法、対応のあり方について学ぶ。</p> <p>本講義では、今後教職課程における「介護等体験」を履修する際、また「介護」を必要とする個人と接する際に必要となる基礎的知識及び実践可能な援助について理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の「介護」をとりまく様々な事象についてー 2. 「介護」の歴史、定義 ー人間の尊厳とはー 3. 「介護」をとりまく制度・政策（1）ー日本国憲法、社会福祉関係法令ー 4. 「介護」をとりまく制度・政策（2）ー介護保険制度とは何かー 5. 生活を「支える」ー生活の必要（ニード）とその充足の構造ー 6. 生活の視点から考える介護技術 7. 車椅子の基本操作と援助の実際 8. 体位変換、移動の介護と褥瘡予防 9. 食事の介護と胃瘻の知識 10. 認知症の理解と介護 11. コミュニケーションの重要性、回想法 12. 在宅介護とチームアプローチケアマネジメントとは 13. 介護する人を介護する 14. 介護において必要とされるボランティアー今、あなたができることー 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に適宜紹介する。		出席状況、授業中に課す小レポート及び期末レポート（または試験）により評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	日本史概説 I	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近年の日本史研究では、日本列島に展開した歴史像がより多角的、多面的な捉えなおされており、今日では一定の成果を確認することができる。こうした研究状況をふまえ、前近代を素材に文字史料の読み直しとともに非文字史料にも着目し、それぞれの時代像や歴史認識を豊かにするために重要と思われるテーマを講義していきたい。</p> <p>極めて限られた時間数の中での講義のため、歴史経過にそって通史的に講義することは必要最低限にとどめるとともに、取り上げるテーマには時代的に多少の多寡があることも予め承しておいていただきたい。</p> <p>高校までの歴史学習で習得した歴史の流れをふまえて授業にのぞむことが授業を退屈にさせないカギとなるだろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ的に—日本とは？歴史とは？— 2. 日本における歴史研究の歴史—史学史①— 3. 日本における歴史研究の歴史—史学史②— 4. 古代の社会—弥生のムラとクニ①— 5. 古代の社会—弥生のムラとクニ②— 6. 古代の社会—フカタケル大王の時代— 7. 古代の社会—律令制の形成と展開— 8. 中世の社会—絵図にみる百姓と武士の世界①— 9. 中世の社会—絵図にみる百姓と武士の世界②— 10. 中世の社会—洛中洛外図を読み解く①— 11. 中世の社会—洛中洛外図を読み解く②— 12. 中世の社会—洛中洛外図を読み解く③— 13. 中世から近世へ① 14. 中世から近世へ② 15. まとめ <p>なお、上記の計画は授業展開により変更されることもある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用せず、参考文献は講義の中で随時、紹介・配布する。高等学校の日本史の教科書や概説書が手元があれば参考になる。</p>		<p>試験とともに授業内容に応じて課す小レポートなどをもとに、出席状況も含め総合的に評価する。</p>	

03年度以降	日本史概説 II	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本史概説 I に続くこの講義では、近現代を素材としていく。その際、対外関係を基軸に考察していくが、その前提となる前近代の対外関係についても扱うことになる。この講義を通じて、現代の国際化社会における日本のあり方、さらには歴史教育のあり方などをめぐって受講生とともに考えていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 古代・中世の自国認識と他国認識① 2. 古代・中世の自国認識と他国認識② 3. 日本型華夷秩序の形成・展開① 4. 日本型華夷秩序の形成・展開② 5. 「鎖国」論をめぐって① 6. 「鎖国」論をめぐって② 7. 近世の本草学と博物学① 8. 近世の本草学と博物学② 9. 近代の対外認識① —「近代」と「他者」へのまなざし— 10. 近代の対外認識② —「近代」と「他者」へのまなざし— 11. 国民国家論とは 12. 博覧会・博物館と国民国家① 13. 博覧会・博物館と国民国家② 14. 博覧会・博物館と国民国家③ 15. まとめ（エピローグ的に） —こんにちの歴史学・歴史教育の課題— <p>なお、上記の計画は授業展開により変更されることもある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用せず、参考文献は講義の中で随時、紹介・配布する。高等学校の日本史の教科書や概説書が手元があれば参考になる。</p>		<p>試験とともに授業内容に応じて課す小レポートなどをもとに、出席状況も含め総合的に評価する。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	外国史概説 I	担当者	兼田 信一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、はじめに現代中国の地理的・風土的特徴と最近の中国事情や社会問題を概観した後、新石器時代から唐帝国滅亡までの歴史を、政治史的展開・周辺諸民族との関係・農村社会の展開、の3つを軸に概観していく。</p> <p>農村社会に注目するのは、農村こそ近代中国において多くの人々の生きる場であったにもかかわらず、そこでどのような生活が営まれていたのか、あまり知られていないからである。</p> <p>そこで、単に新石器時代から唐代末期までの政治史的展開を概観するだけでなく、この時期の農村社会の展開をも見ることで、中国社会の特質とそこで生きる人々を理解する一助としてもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1, オリエンテーション 2, 現代中国事情 3, 中華文明の形成 4, 最初の社会変動と小家族農民の登場 5, 皇帝支配の成立と郷里社会① 6, 皇帝支配の成立と郷里社会② 7, 豪族の成長と郷里社会の崩壊 8, 新集落の登場と貴族制 9, 中国社会の分裂と東アジア 10, 中国社会の再統一と東アジア 11, 唐律令体制と郷里社会 12, 唐帝国と周辺諸国 13, 律令制の動揺、藩鎮体制、唐の滅亡 14, 六朝～唐代の女性 15, まとめ（中国社会の特質） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
堀敏一『中国通史』（講談社学術文庫）、講談社。講義中に配布するプリント・資料を基本テキストとする。また参考文献も講義中に紹介する。		出席状況（3割）と筆記試験（7割）（語句記述、史料問題その他、持ち込み不可）の成績で評価を出す。	

03 年度以降	外国史概説Ⅱ	担当者	久慈 栄志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ヨーロッパ諸国の「近代化」課程を社会・文化・経済・宗教等の側面から考察する。「近代化」の特質とその功罪を検証し、明治以降のわが国に及ぼした影響を与えたか、という点もあわせて論じたい。</p> <p>16世紀頃から19世紀までの歴史的出来事の中から、ヨーロッパ圏内はもとより、周辺世界に対してもインパクトが大であった事項を取り上げる。前半は宗教的側面から、後半は経済的側面を中心にアプローチしたい。</p> <p>テキストは特に指定しないが、下に掲げた参考文献中、2冊程度は目を通してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大下尚一／西川正雄／服部春彦／望田幸男編『西洋の歴史（近現代編）』【増補版】（ミネルヴァ書房） 井上幸治編『西洋史入門』【増補版】（有斐閣双書） 佐藤真一『ヨーロッパ史学史』（知泉書館） 堺憲一『あなたが歴史と出会うとき』【新版】（名古屋大学出版会） 遅塚忠躬『史学概論』（東京大学出版会） 		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 歴史叙述・歴史理論の変遷（古代～中世） 3. 同上 4. 歴史叙述・歴史理論の変遷（近代以降） 5. 同上 6. 「近代」の概念について 7. 宗教改革～宗教改革に見る近代性と、インパクトについて 8. 同上 9. 市民革命～英仏両革命の共通性と異質性とは 10. 同上 11. 産業革命～拝金主義と社会の諸矛盾、社会主義の必然性について 12. 同上 13. 「近代化」とは何だったのか～その変質を考える 14. 帝国主義と世界再分割～経済的矛盾の「武力による打開」と「差別意識」について 15. 同上 	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の参考文献を参照のこと。また、高校世界史教科書及び、図録なども座右に置くことが望ましい。		試験を実施する。（記述形式、ノート持込不可）出席状況も加味。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	地理学概説Ⅰ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>自然環境と人間のかかわりについて、地理学的観点から具体的な事例をもとに考察する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な自然環境の見方を身につける。</p> <p>本講義では、身近な地域の環境を自然地理学の観点から分析する基礎として、まず地形図の利用法を扱う。その後、関東地方の自然地理的な特色とその基盤の上に立った人々の生活について説明する。</p> <p>*講義科目ではあるが、実習等を行う予定である。色鉛筆、定規等指示された用具を準備すること。</p> <p>*中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、次の文部科学省検定済教科書を購入し、自習しておくこと。(授業時には必要に応じて持参する。)</p> <p>『詳解地理 B』 二宮書店 『コンパクト地図帳』 二宮書店</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (講義の概要) 2. 地形図利用の基礎(1) 地形図の基礎知識 3. 地形図利用の基礎(2) 距離と面積、等高線と地形 4. 地形図利用の基礎(3) 土地利用を読む 5. 東京・関東の地形的特色(1)山の手と下町 6. 東京・関東の地形的特色(2)台地 7. 東京・関東の地形的特色(3)荒川と利根川の低地 8. 東京・関東の地形的特色(4)東京湾 9. 東京・関東の地形的特色(5)関東山地 10. 東京・関東の気候的特色(1)気候システムと気候のスケール、気候と景観、観測とデータ 11. 東京・関東の気候的特色(2)山地の気候・平野の気候 12. 東京・関東の気候的特色(3)海岸の気候・内陸の気候 13. 東京・関東の気候的特色(4)都市気候と気候の変化 14. 東京・関東の自然災害と防災(1) 15. 東京・関東の自然災害と防災(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート(小課題)、出席状況	

03年度以降	地理学概説Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の基本的概念を理解し、これらの概念を用いて、どのような研究が行われているかを展望する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な人文地理学の見方・考え方を身につける。</p> <p>本講義では、地理的知識の拡大と地理学の歴史を述べた後、地理学の主要概念のうち「環境」「景観」「場所と立地」「伝播」について解説する。さらに、人文地理学のいくつかのテーマを取り上げ理解の深化を図る。</p> <p>*中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、次の文部科学省検定済教科書を購入し、自習しておくこと。(授業時には必要に応じて持参する)</p> <p>『詳解地理 B』 二宮書店 『コンパクト地図帳』 二宮書店</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 地理学の歴史(1) 2. 地理学の歴史(2) 3. 地理学の歴史(3) 4. 地理学の主要概念(1)環境 5. 地理学の主要概念(2)景観 6. 地理学の主要概念(3)場所と立地(1) 7. 地理学の主要概念(4)場所と立地(2) 8. 地理学の主要概念(5)場所と立地(3) 9. 地理学の主要概念(6)地域と空間 10. 地理学の主要概念(7)伝播 11. 地理学のトピックス(1)メンタルマップ 12. 地理学のトピックス(2)時間地理学 13. 地理学のトピックス(3)地理情報システム(1) 14. 地理学のトピックス(4)地理情報システム(2) 15. 地理学のトピックス(5)教育と地理 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート(小課題)、出席状況	

03年度以降	地誌学概説Ⅰ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。地誌学における主要概念である「地域」と地域分析法を理解した上で、日本を事例地域として地誌学的見方を身につけることを目的とする。</p> <p>本講義では、地誌学の方法、「地域」概念について講義した後、地域を扱う上で必要な文献や統計の収集法や利用法、統計分析など地域分析の手法を習得する。その上で、日本地誌を扱う。</p> <p>*講義科目であるが、実習を含むので、色鉛筆、電卓等授業中に指示された用具は各自用意すること。</p> <p>*地図帳を持参すること。</p> <p>*中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、次の文部科学省検定済教科書を購入し、自習しておくこと。(授業時には必要に応じて持参する)</p> <p>『詳解地理 B』 二宮書店 『コンパクト地図帳』 二宮書店</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション—地誌学とは 2. 「地域」の概念 3. 地域分析の基礎 (1) 文献・資料・統計の所在と検索 4. 地域分析の基礎 (2) 統計の利用 5. 地域分析の基礎 (3) 統計の地図表現 6. 地域分析の基礎 (4) 空間分析 7. 地域分析の基礎 (5) 地域構造 8. 日本地誌 (1) 自然環境と風土 9. 日本地誌 (2) 歴史的背景と地域文化 10. 日本地誌 (3) 人口分布と人口構造 11. 日本地誌 (4) 産業と地域変容 (1) 12. 日本地誌 (5) 産業と地域変容 (2) 13. 日本地誌 (6) 交通・通信と地域 14. 日本地誌 (7) 都市の変容 15. 日本地誌 (8) 地域構造と地域区分 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート(小課題)、出席状況	

03年度以降	地誌学概説Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。本講義では、世界の地域構造を概観したのち、アメリカを事例地域としてとりあげ、地誌的見方を身につけることを目的とする。</p> <p>*地図帳を持参すること。</p> <p>*中学校「社会」高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、次の文部科学省検定済教科書を購入し、自習しておくこと。(授業時には必要に応じて持参する)</p> <p>『詳解地理 B』 二宮書店 『コンパクト地図帳』 二宮書店</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界認識の基礎 2. 世界の地域構造とその変容 (1) 自然的基盤 3. 世界の地域構造とその変容 (2) 文化圏 4. 世界の地域構造とその変容 (3) 国家と経済 5. アメリカ地誌 (1) アメリカとは 6. アメリカ地誌 (2) 自然景観 (1) 7. アメリカ地誌 (3) 自然景観 (2) 8. アメリカ地誌 (3) 歴史的背景 9. アメリカ地誌 (4) 人口と社会 10. アメリカ地誌 (5) 産業と経済 (1) 11. アメリカ地誌 (6) 産業と経済 (2) 12. アメリカ地誌 (7) 産業と経済 (3) 13. アメリカ地誌 (8) 産業と経済 (4) 14. アメリカ地誌 (9) 都市と生活 15. アメリカ地誌 (10) アメリカと世界 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート(小課題)、出席状況	

03 年度以降	法律学概説 I	担当者	小川 佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法学及び憲法の基礎について学ぶ。</p> <p>講義は、法、法律、裁判とは何か、という基本から行い、具体的な裁判制度、各種法律についても触れる。受講者には、憲法、法律、権利、契約、裁判といった法律的概念について具体的なイメージを掴んでもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 法とは何か (1) 2. 法とは何か (2) 3. 私法と公法 4. 法と裁判 5. 憲法と法律 6. 憲法の原理 7. 憲法：人権 (1) 8. 憲法：人権 (2) 9. 憲法：人権 (3) 10. 憲法：統治機構 (1) 11. 憲法：統治機構 (2) 12. 憲法：統治機構 (3) 13. 憲法上の諸問題と裁判例 (1) 14. 憲法上の諸問題と裁判例 (2) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最新版六法。ほかは特に指定しない。		原則として期末試験で評価する。ただし特段の事情のある場合はその他の方法で評価を行うことがある。	

03 年度以降	法律学概説 II	担当者	小川 佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に続き、法について学ぶ。後期は、民事や刑事の具体的事件を題材として、法と裁判について学習する予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 法と歴史 2. 憲法と歴史 3. 日本における憲法 (1) 大日本帝国憲法 4. 日本における憲法 (2) 日本国憲法 5. 憲法問題と戦後 (1) 6. 憲法問題と戦後 (2) 7. 刑事事件 (1) 8. 刑事事件 (2) 9. 刑事事件 (3) 10. 民事事件 (1) 11. 民事事件 (2) 12. 民事事件 (3) 13. 憲法訴訟 (1) 14. 憲法訴訟 (2) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		原則として期末試験で評価する。ただし特段の事情のある場合はその他の方法で評価を行うことがある。	

03 年度以降	政治学概説 I	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>政治学は古来、教養の学として長い伝統を築いてきました。近代以前においては統治者の教養の学あるいは統治の技術でした。政治学が役人や政治家になるための学問であるという見解が生まれたのは、そのような伝統に起因するわけです。しかし統治者＝被治者であるデモクラシーの現代においては、政治学はまず第一にすべての市民の教養の学でなければなりません。本講義は、このような観点に立って、市民のための政治学を目ざします。</p> <p>「政治学概説 I」では、まずそもそも政治とは何かを考えることから始め、ついで(I) 近現代の政治を理解する上で不可欠の基本概念を学び、ついで(II)近代日本の政治構造の特質を学びます。</p>		<p>I<政治学的理解のための基本概念> テキスト対応章</p> <p>(1) 政治と何か 序章</p> <p>(2)国家・主権・国民 第 5 章</p> <p>(3)主権国家と権力分立 第 5 章</p> <p>(4)自由と自由主義 第 3 章</p> <p>(5)平等と民主主義 第 18 章</p> <p>(6)公と私 第 6 章</p> <p>(7)市民社会と国民国家 第 6 章</p> <p>(8)国民国家と福祉国家 第 4 章</p> <p>(9)ナショナリズムとコスモポリタニズム 第 6 章</p> <p>II<近代日本の政治></p> <p>(10)明治憲法体制下の政治システム 第 11 章</p> <p>(11)明治憲法体制の変質</p> <p>(12)日本国憲法体制下の政治システム</p> <p>(13)55 年体制 第 13 章</p> <p>(14)ポスト 55 年体制</p> <p>(15)政権交代可能な政治システムの条件 第 10 章</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><テキスト>久米・川出・古城・田中・真淵『政治学』（有斐閣，2003 年）</p> <p>飯尾潤『日本の統治構造』（中公新書，2007）</p>		出席と期末試験による。	

03 年度以降	政治学概説 II	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>政治学は古来、教養の学として長い伝統を築いてきました。近代以前においては統治者の教養の学あるいは統治の技術でした。政治学が役人や政治家になるための学問であるという見解が生まれたのは、そのような伝統に起因するわけです。しかし統治者＝被治者であるデモクラシーの現代においては、政治学はまず第一にすべての市民の教養の学でなければなりません。本講義は、このような観点に立って、市民のための政治学を目ざします。</p> <p>「政治学概説 II」では、(I) 現代日本の政治制度と政治過程の主要な論点を学び、ついで(II)国際政治の構造と変容を学びます。</p>		<p>I<政治過程> テキスト対応章</p> <p>(1)議院内閣制と民主主義 第 10 章</p> <p>(2)議会 第 10 章</p> <p>(3)政府 第 11 章</p> <p>(4)官僚制と官庁システム 第 12 章</p> <p>(5)政党と政党政治 第 24 章</p> <p>(6)利益団体と政治 第 23 章</p> <p>(7)選挙と政治参加 第 22 章</p> <p>(8)投票行動 第 19 章</p> <p>(9)世論とメディア 第 21 章</p> <p>II<国内政治と国際政治></p> <p>(10)国内社会と国際政治 第 7 章</p> <p>(11)国際政治のイメージ 第 14 章</p> <p>(12)国際関係における富の配分 第 9 章</p> <p>(13)国際関係における安全保障 第 8 章</p> <p>(14)国際制度 第 14 章</p> <p>(15)対外政策の形成 第 16 章</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><テキスト>久米・川出・古城・田中・真淵『政治学』（有斐閣，2003 年）</p> <p>飯尾潤『日本の統治構造』（中公新書，2007）</p>		出席と期末試験による。	

03年度以降	社会学概説 I	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己(わたし)」について考えることでもある。とくに本講義では、社会学がこれまで関心を寄せてきた諸概念をとりあげ、それを現代的な文脈で考えてみたい。</p> <p>本講義のねらいは、「社会学」という学問が、どういった経緯で成立したか、また社会的視点、社会的な考察とは、どういったものか、さらに社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズムについて学び、それをとおして社会における自己と他者についての関係を考えることである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション—社会的な視座とは 2. 社会学の歴史(1)—A. コント、H. スペンサー 3. 社会学の歴史(2)—E. デュルケム 4. 社会学の歴史(3)—M. ウェーバー 5. 社会の類型(1)—コミュニティとアソシエーション 6. 社会の類型(2)—ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 7. 社会の類型(3)—第一次集団 8. Identity形成と社会(1)—鏡に映った自己 9. Identity形成と社会(2)—重要な他者 10. Identity形成と社会(3)—マージナル・マン 11. Identity形成と社会(4)—未定 12. 補完的アイデンティティについて(1) 13. 補完的アイデンティティについて(2) 14. 補完的アイデンティティについて(3) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>G. ジンメル『社会学の根本問題(個人と社会)』世界思想社 E. デュルケム『自殺論』中央公論社 M. ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 G.H. ミード『社会的自我』恒星社厚生閣</p>		出席とレポート(履修者多数の場合、期末試験を行う)	

03年度以降	社会学概説 II	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。</p> <p>本講義のねらいは、異なった社会的・文化的背景をもつひとびとが、ともに生き、ともに暮らす社会において、なにが問題とみなされるのか、なにが必要とされているのかを社会的視点から考え、「都市」「移民」「地域」に注目しつつ、現代のグローバル化・国際化のもとで日本社会が直面する課題とはなにか、そこからどのようなネットワークがあらたに生まれるかについて学ぶことである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」—E. フロム 3. 同調様式の3類型—D. リースマン 4. 都市化と移民—W.I. トマスとF.W. ズナニエツキ 5. 同心円地帯説—E. パージェス 6. シカゴ学派と都市問題—R. パーク 7. 「社会」問題と社会的視座(1) 8. 「社会」問題と社会的視座(2) 9. 「社会」問題と社会的視座(3) 10. 予言の自己成就—R.K. マートン 11. 誇示的消費—T. ヴェブレン 12. 認知的不協和の理論—L. フェスティンガー 13. 文化的再生産—P. ブルデュー 14. コンフルエント・ラブ—A. ギデンズ 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>E. フロム『自由からの逃走』東京創元社 D. リースマン『孤独な群集』みすず書房 W.I. トマス、F. ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書房 A. ギデンズ『親密性の変容』而立書房 ほか</p>		出席とレポート(履修者多数の場合、期末試験を行う)	

03年度以降	哲学概説Ⅰ	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨今、哲学の復権が唱えられ自分探しの一環として哲学が一種の流行となっているが、それらをも包摂し相対化する視点こそが、今求められている。一般教養としての哲学史的知識も教職に必要であるが、教師として以前に、一人の人間として真摯に生きるために「哲学」が持つ意義を考えてもらいたい。</p> <p>西欧思想を歴史的にもしくは主題別に辿ることが、本講義の概要であるがそこには二つの偏りが存在していることを意識しつつ論じて行きたい。</p> <p>西欧哲学としての偏りと明治以降の輸入哲学としての偏りである。哲学をギリシア起源の「学」としてのみ捉えるのではなく、幅広く「思想」として捉え、政治・社会・宗教・歴史・科学等への影響をも視野に入れて論じたい。</p> <p>個々の思想家の経歴や思想の細部の紹介は、テキストに譲り、彼らとその思想を形成した動機や課題、歴史的な位置付けなどを重視して論じる。</p> <p>春学期と秋学期を通して受講することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学とは何か（1） 2. ソクラテス以前 3. 〃 4. ソクラテス 5. プラトン 6. 〃 7. アリストテレス 8. 〃 9. スコラ哲学 10. 〃 11. 科学革命 12. 〃 13. 合理論 14. 〃 15. 〃 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント資料配布（実費 300 円）</p> <p>文献は随時紹介する。</p>		<p>レポート、出席点を試験の点に加算</p> <p>（出席は 2 / 3 以上必要）</p>	

03年度以降	哲学概説Ⅱ	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期のみを受講することは、出来るだけ避けてください。</p> <p>（春学期に同じ）</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経験論 2. 〃 3. 社会契約説 4. カント 5. 〃 6. ドイツ観念論 7. 〃 8. キルケゴール・マルクス・ニーチェ 9. 〃 10. フッサール・ハイデッガー・ヤスパーズ 11. 〃 12. ウィトゲンシュタイン 13. 構造主義 14. 言語哲学 15. 哲学とは何か（2） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント資料配布（実費 300 円）</p> <p>文献は随時紹介する。</p>		<p>レポート、出席点を試験の点に加算</p> <p>（出席は 2 / 3 以上必要）</p>	

03 年度以降	倫理学概説 I	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目標】 西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、どのように思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 哲学の学習は「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもよい。</p> <p>【講義概要】 哲学史の入門書をもとに授業を進行していく。 春学期は古代ギリシアから、中世哲学をへて、近世 17 世紀のデカルト・スピノザまでを見ていく。 教科書はかなりコンパクトに各哲学者の思想をまとめたものだが、その圧縮された内容を発展的にふくらませる補足説明を毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。</p> <p>【受講生への要望】 他人の言葉を読む・聴くときには、自分の心のなかを静かに沈黙させて、他人の言葉をできる限りていねいに受けとれるようにしてみよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 (プレゼン担当者の募集・日程調整を含む) 2. プラトン(1)「ソクラテスの死から」 3. プラトン(2) 4. アリストテレス「人間は知ることを欲する」 5. プロティノス、エピクロス派、ストア派 6. アウグスティヌス 7. トマス・アキナス(1)「人間と神」 8. トマス・アキナス(2) 9. デカルト(1)「私は思考する、ゆえに私は在る」 10. デカルト(2) 11. デカルト(3) 12. パスカル「きみはもう船に乗りこんでいる」 13. スピノザ(1)「幾何学的順序による『エチカ』」 14. スピノザ(2) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ドミニク・フォルシェー 『西洋哲学史 パルメニデスからレヴィナスまで』 (白水社・文庫クセジュ)</p>		<p>学期末試験による。 ただし、各授業回で教科書への補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。</p>	

03 年度以降	倫理学概説 II	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目標】 西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、どのように思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 哲学の学習は「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもよい。</p> <p>【講義概要】 哲学史の入門書をもとに授業を進行していく。 秋学期は 18 世紀のルソー・カントから、19 世紀のニーチェをへて、20 世紀のハイデガーまでを見ていく。 教科書はかなりコンパクトに各哲学者の思想をまとめたものだが、その圧縮された内容を発展的にふくらませる補足説明を毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。</p> <p>【受講生への要望】 他人の言葉を読む・聴くときには、自分の心のなかを静かに沈黙させて、他人の言葉をできる限りていねいに受けとれるようにしてみよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 (プレゼン担当者の募集・日程調整を含む) 2. ルソー(1)「社会的人間の不幸」 3. ルソー(2) 4. カント(1)「目的の国」 5. カント(2) 6. ヘーゲル(1)「主人と奴隷の弁証法」 7. ヘーゲル(2) 8. キルケゴール(1)「誘惑者の日記」 9. キルケゴール(2) 10. ニーチェ(1)「音楽の精神からの悲劇の誕生」 11. ニーチェ(2) 12. ニーチェ(3) 13. ハイデガー(1)「死への先駆」 14. ハイデガー(2) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ドミニク・フォルシェー 『西洋哲学史 パルメニデスからレヴィナスまで』 (白水社・文庫クセジュ)</p>		<p>学期末試験による。 ただし、各授業回で教科書への補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。</p>	

03年度以降	宗教学概説Ⅰ	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>戦後教育が宗教について意識的に或いは無意識的に避け続けてきた為、現代の日本人は宗教に関して一種の「真空状態」に置かれており、そこから様々な問題が昨今生じている。</p> <p>そこで本講義は、宗教学の学的体系性よりも、むしろ諸宗教の歴史と現在についての一般的概括的知識を得られるようにすることを重点とする。更に教職科目であることにも鑑み、宗教教育のあり方についても論じたい。</p> <p>前期は洋の東西、今昔を問わず世界史上の諸宗教の歴史と現在について説明し、宗教の果たして来た役割・問題点について考えてもらう。</p> <p>春学期と秋学期を通して受講することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 宗教とは何か (1) 2. 神話と宗教 3. ユダヤ教 (1) 4. ユダヤ教 (2) 5. キリスト教 (1) 6. キリスト教 (2) 7. キリスト教 (3) 8. キリスト教 (1) 9. イスラム教 (1) 10. イスラム教 (2) 11. イスラム教 (3) 12. イスラム教 (4) 13. ヒンドゥ教 (1) 14. ヒンドゥ教 (2) 15. ヒンドゥ教 (3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『世界が分かる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 筑摩文庫 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

03年度以降	宗教学概説Ⅱ	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は春学期に同じ。春学期の続きの後に秋学期は、日本の宗教の歴史と、日本人の宗教的心性の形成にまず触れ、その後に宗教的諸概念についての理解を深め、日本や欧米の先進国において宗教集団が現在持っている意義や問題点を論じた上で、宗教教育の是非・可能性を論じる。</p> <p>秋学期のみを受講することは、出来るだけ避けてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 仏教 (1) 2. 仏教 (2) 3. 仏教 (3) 4. 仏教 (4) 5. 儒教 (1) 6. 儒教 (2) 7. 道教 8. 日本の宗教の歴史と現在 (1) 9. 日本の宗教の歴史と現在 (2) 10. 日本の宗教の歴史と現在 (3) 11. 宗教上の諸概念(儀礼・戒律・修行など) 12. 宗教団体の諸問題 (1) 13. 宗教団体の諸問題 (2) 14. 学校教育と宗教 15. 宗教とは何か (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『世界が分かる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 筑摩文庫 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

03年度以降	心理学概説Ⅰ	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観する。その後、性格の形成、ストレス、生きがいと心の健康などのテーマについて、さまざまなデータを示しながら説明していく。</p> <p>本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。</p>		<p>以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに：科学としての心理学 2. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 3. 心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 4. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 5. 心理学のあゆみ④：精神分析理論 6. 性格とは？：自己の性格理解 7. 性格をとらえる枠組み：性格理論 8. 性格の形成：遺伝的要因と双生児研究 9. 性格の形成：環境的要因 10. ストレス①：ストレスと性格 11. ストレス②：ストレス・コーピング 12. ストレス③：ストレスの生理心理学 13. 現代社会とストレス 14. 現代社会とこころの病 15. 生きがいとこころの健康 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。		授業における小レポートと試験により総合的に評価する。	

03年度以降	心理学概説Ⅱ	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらおう。これらの学習を通して、心理学の基本的知見を習得してほしい。また、心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後は、結果をレポートにまとめてもらう。関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともありうる。</p> <p>※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（2000円程度）を負担してもらおう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。</p>		<p>授業計画は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理検査とは？ 2. 心理検査の種類と理論 3. 質問紙による性格検査① 4. 質問紙による性格検査② 5. ストレス・コーピング 6. 絵からみる家族像 7. 知能検査 8. 感情指数 9. 職業興味 10. 仕事と自己理解 11. グループ・ワークによる自己理解① 12. グループ・ワークによる自己理解② 13. グループ・ワークによる自己理解③ 14. グループ・ワークによる自己理解④ 15. 心理検査による自己理解のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
各種の心理検査用紙はこちらで用意する。ただし、履修者には、これら心理検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらおう。申請書と引き換えに検査用紙を配布する予定である。		各回の授業レポートと最終のレポートにより総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	生涯学習概論	担当者	阪本 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちはその成長・発達に応じて、人間として学ぶべき課題を持っています。また、少子高齢化、都市化、国際化など、社会の様々な変化に対応した学習が絶えず求められています。生涯学習は、私たちの教育や学習に対する考え方を大きく転換させ、現代社会のなかで重要な意味を持っています。</p> <p>本講では、生涯学習に関する基本的な考え方を学ぶとともに、生涯学習社会における学校教育、社会教育、家庭教育の在り方や、現代社会と生涯学習の関わりについて考えます。</p> <p>受講者数にもよりますが、講義形式だけでなく、受講生からの発言やグループ学習を取り込みながら進めていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 人間の発達と学習 3. 社会の変化と学習 4. 生涯学習の理念とその背景 5. 生涯学習の学習論 6. 生涯学習と学校教育 7. 生涯学習と社会教育 8. 生涯学習と家庭教育 9. 生涯学習と地域社会 10. 生涯学習の方法と形態① 11. 生涯学習の方法と形態② 12. 学習形態・技法と学習支援者の役割 13. 生涯学習施設の機能と役割 14. 生涯学習を支援する行政の現状と課題 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはありません。レジュメ等、資料を配布して授業を進めます。ガイダンスで参考文献を紹介する他、授業中に参考文献を紹介します。</p>		<p>出席（7割以上）、講義中の課題、学期末のレポートなどを総合的に評価します。</p>	

03年度以降	図書館概論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の概要と目的： 図書館の機能の基本である資料について学習する。資料の種別、資料選択の考え方、資料構築方針や資料保存・更新などについての実務を学ぶ。 書店やマスコミ、インターネットという多様な情報提供源とは異なる、民主主義社会の基礎となる情報提供源である図書館の役割と意義、使命について考える。検閲や焚書といった印刷メディアから視聴覚メディアや電子メディアなどの情報提供に対する批判や圧力などについて考える。図書館や図書館員がどのような役割をはたすべきなのかを考える。</p> <p>到達目標： 図書館全体にわたっての基本的知識を理解していること。また、図書館の現状を把握し、課題について自分の意見や考えを述べるができること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> はじめに 現代社会と図書館 出版文化と図書館 図書館と著作権 図書館の自由 図書館の法的基盤 図書館をめぐる財政策 地域社会と図書館 公共図書館の役割と活動 学校図書館の役割と活動 大学図書館 専門図書館 国立国会図書館 図書館の歴史 海外の図書館 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『図書館サービス論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅡ-3)日本図書館協会、2010年		出席(授業回数×2)と試験(約80%)で評価。	

03年度以降	図書館経営論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>公共図書館を中心としての図書館運営・経営についての概論。事例研究をもとに議論していく。近年の図書館をめぐる法的基盤や財政施策、地方自治体の社会教育政策をおさえながら、資料管理・施設設備管理、人的資源管理をめぐる課題を考える。 多くの図書館では、人材派遣や契約職員、アルバイト、ボランティアなどの人々が働いている。正職員であったとしても、必ずしも司書有資格者とは限らない。したがって、司書有資格者の主な仕事は資料管理運営から財政管理や人事管理、スタッフ教育、さらに自己継続教育といった内容にシフトしており、そのための戦略的計画や積極的な図書館活動のためのプロモーション、資金獲得のための政治的手腕が求められている。そのため、企業の経営管理運営理論を参考にして、実際の公共図書館の例をケース・スタディとして学習しながら、現状の把握と問題点、さらにどのような戦略的活動が求められているのかを学ぶ。 事例研究ではグループでの議論が中心となり、また積極的な発言がもとめられるため、<u>授業参加は必須</u>となる</p>		<ol style="list-style-type: none"> 情報社会と図書館の情報戦略 企業の経営理論と図書館経営 公的セクターの経営理論と図書館経営 図書館法政策 図書館経営の実態 統計からみた図書館経営 地方自治体の図書館政策 都道府県の場合 地方自治体の図書館政策 市町村の場合 財政と図書館経営 建築、施設・設備—PFIや委託の問題— 人事管理—専門職の役割と委託などの問題— 資料管理 事業計画策定 ネットワーク 海外の図書館経営 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料を配布する		出席、授業参加度、グループでの事例研究の討議、数度の課題・報告で総合的に評価する。	

03年度以降	図書館サービス論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>公共公立図書館を中心として、その図書館活動の実務を理解し、情報資料・人的資源の効率よい図書館活動とは何か、図書館活動に関わる組織・管理・運営、各種計画などについて理解する。また、その活動評価についても考えていく。特に、利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに各種サービスの特質を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに。 2. 図書館の法的基盤と社会的意義 3. 図書館サービスの意義 4. 来館者へのサービス ー貸出、利用援助などー 5. 資料提供の基礎ー場と図書館ー 6. 資料提供の展開 ー貸出サービスー 7. 資料提供の展開 ープロモーション活動 「いつでも、どこでも、誰にでも」ー 8. 情報提供 ー利用者のニーズへの対応などー 9. 集会・文化活動、行事など 10. 利用対象者別サービス (1) 11. 利用者対象者別サービス (2) 12. 図書館マーケティング活動 ー利用者の交流の場としての図書館ー 13. 図書館経営ー図書館サービスとマネージメントー 14. 図書館サービスと図書館員・司書 ー人的資源と図書館サービスー 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『図書館サービス論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅡー3)日本図書館協会、2010年		出席(授業回数X2)と試験(約80%)で評価。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報サービス論 a	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】本講義での情報サービスとは、図書館の情報提供機能を具体化するサービス全般のことをいうが、これにはレファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、さらにはCD-ROMやオンラインの検索サービス等、さまざまなサービスが含まれる。本講義ではこの情報サービスの総合的な理解を目指す。</p> <p>【概要】図書館の情報サービスについての基本的な事項を解説する。より具体的には授業計画を参照のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：受講者の確認。授業方法等について説明。 2 情報サービスの概要と実際（ビデオ鑑賞等） 3 レファレンスサービス 4 利用案内 5 レフェラルサービス，カレントアウェアネスサービス 6 検索サービス 7 前半部分のまとめ。質問受付。 8 獨協大学図書館の情報サービス 9 発展的情報サービス 10 情報サービスで用いる情報源の類別 11 レファレンスコレクションの構築・評価 12 情報サービスにおけるコミュニケーション 13 レファレンスサービスの記録と事例 14 最新の情報サービス 15 授業全体のまとめ。質問受付。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報サービス論 b	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館活動の基本は資料提供である。利用者の求めにおうじて、多様な形態の資料を提供し、情報を提供する。このサービス活動のひとつがレファレンス・サービスである。利用対象者をとわず、あらゆる質問や調査、資料・情報探索への迅速かつ適確な対応を可能とするのが、専門職たる司書の使命である。この科目では司書になるためのレファレンス・サービスの実習である。幅広い教養と専門知識・探索技術に裏付けられたサービス活動である。</p> <p>最近では地域産業活性化のためにビジネス情報提供に特化したレファレンス・サービスや、陪審員制度をきっかけとしての法律情報提供、高齢化社会にともなう健康情報提供、調べ学習や総合的な学習といったこどもたちの自律的学習活動のための支援といったテーマ別のレファレンスサービスも盛んとなっている。</p> <p>毎回、図書館の参考図書を利用した情報探索演習をおこなう。授業参加は必須である。毎週、課題を提出してもらおう。</p> <p>最終目標は何を聞かれても調べて情報を提供できるプロ「やおよろず質問受付」になることである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 質問の分析技術と情報探索技術 3. 「パスファインダー」作成 4. 情報源の探索 OPAC 利用の実際 5. 新聞・雑誌記事の探索 6. 出版情報・図書所在情報の探索 7. 統計資料の探索 8. 歴史・地理分野情報の探索 9. ビジネス分野情報の探索 10. 法律分野情報の探索 11. 健康情報の探索 12. 外国語での情報探索 13. レファレンス・インタビューの実際(1) 14. レファレンス・インタビューの実際(2) 15. レファレンス・インタビューの実際(3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料		出席とほぼ毎回の課題、最後のレファレンスインタビューによる課題で評価する。	

03年度以降	情報検索演習	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に、コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を、解説および実習を通して体得する。</p> <p>【概要】本講義ではまず、情報検索に関する基礎的な概念について解説する。そしてその知識を踏まえた上で、実際の情報検索技術に慣れ、習熟するために、ウェブ上の検索エンジンやCD-ROMデータベース、商用オンラインデータベースを用いた情報検索の実習を行う。実習では可能なかぎり、受講者が今後の調査／研究活動で利用できるような情報源を紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション；情報検索の概要 2 情報検索の種類と歴史 3 データベース 4 情報検索できないときの対処法 5 索引語 6 シソーラス 7 前半部分のまとめ；質問受付 8 獨協大学図書館で利用できるデータベース (1) 9 情報検索関連作業のプロセス：索引作成 10 情報検索関連作業のプロセス：業務としての検索 11 検索式 (1) 12 検索式 (2) 13 検索結果の評価 14 獨協大学図書館で利用できるデータベース (2) 15 授業のまとめ；質問受付 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報検索演習	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>情報検索の基本的理論を学び、実習する。</p> <p>まず、情報検索の歴史、情報の入手方法、主題分析、検索キーの作成、データベースといった諸項目と、情報要求、検索式、検索結果の評価といった諸項目を順に解説する。</p> <p>検索式の解説では、ブール演算子とトランケーションを用いた情報検索の表現方法を、実際の検索および結果の評価では、再現率と適合率等について学ぶ。</p> <p>実践的な情報検索能力を養うために、オンライン検索ではインターネット上の各種情報検索システムできるだけ活用する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス： 情報検索とは 2 情報検索(1)：情報検索システム 3 情報検索(2)：情報検索の理論：ブール演算子 4 情報検索(3)：情報検索の理論：トランケーション 5 情報検索(4)：情報検索結果の評価 6 データベース(1)：データベースと情報検索 7 データベース(2)：データベースシステムと諸項目 8 インターネットの情報検索(1)：検索エンジン 9 インターネットの情報検索(2)：Web情報の探し方 10 インターネットの情報検索(3)：リンク集の作り方 11 検索実習(1)：図書の検索 12 検索実習(2)：雑誌・新聞記事の検索 13 検索実習(3)：人物・企業・団体情報の検索 14 検索実習(4)：法律・統計・特許情報 15 情報検索まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
原田、江草、小山、沢井共著『情報検索演習』新・図書館学シリーズ6、樹村房、2007(3訂)		2～3回程度のレポートおよび出席、期末試験を総合的に評価する。	

03年度以降	図書館資料論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館の機能の基本である資料について学習する。資料の種別、資料選択の考え方、資料構築方針や資料保存・更新などについての実務を学ぶ。</p> <p>書店やマスコミ、インターネットという多様な情報提供源とは異なる、民主主義社会の基礎となる情報提供源である図書館の役割と意義、使命について考える。検閲や焚書といった印刷メディアから視聴覚メディアや電子メディアなどの情報提供に対する批判や圧力などについて考える。図書館や図書館員がどのような役割をはたすべきなのかを考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館資料の定義 2. 図書館における知的自由 3. 図書館における検閲・焚書 4. 印刷資料メディア 5. 視聴覚資料メディア 6. 触覚資料メディア 7. 立体資料メディア 8. 電子資料メディア 9. 特殊資料メディア・専門資料メディア 10. 出版・流通・販売 11. 図書館資料コレクション形成方針 12. コレクション形成の実務 13. 資料の更新・保存・廃棄 14. メディア転換など 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
馬場俊明編 『図書館資料論』（JLA図書館情報学テキストシリーズⅡ7）日本図書館協会、2008年		出席、試験で評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	専門資料論	担当者	松下 鈞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 大学図書館、医学医療、法律、ビジネス支援、文化芸術の分野で専門主題を扱う主題情報専門家への期待がある。「専門資料論」では、さまざまな主題分野における特有な専門資料の種類、記述様式、内容などを知り、それらを実際に使いこなせることを目標としたい。</p> <p>(概要) この授業では主として人文科学、社会科学、自然科学の諸分野における情報・資料の多様性と、その記述形式、活用法等について学ぶ。また、専門主題に特化した図書館におけるサービス、資料の保存法についても触れる。 また、学生が専攻する専門領域に特有な専門資料とレファレンス・ツールと学術的インターネット情報資源についても調査し、ゼミテーマや卒業論文に関する情報源を選別する方法を学ぶ。</p> <p>グループ学習と研究発表を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. インTRODakション 2. 専門資料の定義と構造及び種類 3. 学術情報の連環と学術情報資源 4. 参考図書とインターネット情報資源 5. 美術情報 6. 音楽と舞台芸術情報 7. 医学医療情報 8. 法情報 9. MLAの融合と連携 10. グループワーク(1) 11. グループワーク(2) 12. グループワーク(3) 13. グループ研究発表と講評(1) 14. グループ研究発表と講評(2) 15. 主題情報専門家、サブジェクト・リエゾン 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。		出席(30%)、課題レポート(40%)、最終課題(30%)による総合的評価を行う。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	資料組織概説	担当者	松下 鈞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 図書館が扱う情報資料（図書、雑誌、視聴覚資料、電子資料、インターネット情報資源等）の内容や主題を文字情報や記号によって代替し、アクセスを組織化する理論と技術を学ぶ。</p> <p>(概要) 図書館が扱う媒体に記録されている情報や資料を一定の基準でデータ化する方法を学ぶ。物理的実体のある情報媒体にアクセスする手がかりである「記述目録法」や「主題目録法」に関する理論と技術を学ぶ。さらに物理的実体の無いインターネット情報資源の記録法についても触れる。以上について、伝統的な理論と技術とともに情報が電子化されインターネットが拓いたグローバルな情報世界における情報の記録化の国際的動向についても学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報・資料の組織化とは 2. OPAC データベースの内容 3. NCR（日本目録規則）による書誌情報の記録化 4. NCRによる書誌情報へのアクセス 5. NCRの限界と対応（書誌階層、書誌コントロール） 6. NDCによる主題分析と主題目録 7. NDCと主題からのアクセス（1） 8. NDCと主題からのアクセス（2） 9. BSHによる主題からのアクセス 10. 資料組織化と書誌ユーティリティ 11. インターネット情報資源の保存と組織化 12. インターネット情報資源とメタデータ 13. 情報・資料へのアクセスとパスファインダ 14. 情報・資料の組織化、国際的動向 15. まとめ スキルチェック 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。		出席（30%）、課題提出（40%）、最終レポート（30%）により総合的に評価する	

03年度以降	資料組織演習	担当者	松下 鈞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 「資料組織概説」を既に履修した人を対象として開講する。 NCRによる情報・資料の記述目録の作成、NDCによる主題目録の作成及び解読によって、資料・情報組織化の基礎技術を習得する。 ダブリンコア・メタデータ記述要素を使って、インターネット情報資源のデータベース化に関する基礎技術を習得する。パスファインダー、解題書誌などによる資料・情報の組織法についても学ぶ。</p> <p>(概要) 図書、マルチメディア等の情報・資料について、記述目録を作成する。それらの情報・資料に書き込まれた主題を分析的に読み取り、その主題をNDCを用いて主題目録を作成する。 インターネット情報資源について、DCMIの記述要素を適用してメタデータ・データベースを作成する。パスファインダー、解題書誌の作成を通して、資料・情報の組織法についても学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（情報・資料組織化に関する基礎知識の再確認） 2. NCRによる記述目録法（1） 3. NCRによる記述目録法（2） 4. NCRによる記述目録法（3） 5. NDCによる主題目録法（1） 6. NDCによる主題目録法（2） 7. NDCによる主題目録法（3） 8. BSHによる主題目録法 9. 情報・資料の組織化の現場（見学研修） 10. インターネット情報資源の組織化 11. パスファインダーの作成（1） 12. パスファインダーの作成（2） 13. パスファインダーの作成（3） 14. 解題書誌の作成（1） 15. 解題書誌の作成（2） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。		出席（30%）、課題提出（40%）、最終課題（30%）により総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	児童サービス論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>子どもやヤングアダルトと称せられる 10 代の図書館利用者（潜在的利用者）に対する戦略的で効果をあげうるべき図書館プログラムを企画・実施し、評価に耐えうる内容を考えられる専門職としての児童・YA 担当司書を養成することを目的とする。幅広く、多くの児童書や YA 向け資料を読んでもらうことになる。また、発達心理や読書心理、児童文化や YA 文化、社会問題などについての研究書などについても読んでもらうことになる。</p> <p>（授業開始までに多くの児童書や YA 向け資料等を読んでおいてもらいたい。読むべきリストは前期終了時頃に配布するので、受講予定者はリストを入手して読んでおいてほしい。）</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに。図書館の意義と使命。 2. 民主主義社会・地域社会と図書館の役割。図書館サービスとは何か。 3. 図書館における児童・ヤングアダルト(ティーンズ YA=Young Adult)サービスとは何か？ 4. 地域社会における「子ども」のイメージは何か？ 5. 乳幼児サービス 6. 小学校など児童対象の図書館サービス 7. 中学校や高校など10代のヤングアダルト対象の図書館サービス 8. 児童・YA 図書館活動の歴史 9. 子どもをとりまく大人への図書館活動 10. アウトリーチ・サービスと子どもたちの知的自由 11. 図書館活動をめぐる諸問題－法律と政策、インターネットなど－ 12. 実際の図書館活動推進のための企画・立案、年間計画策定など 13. 児童や YA 向けの図書館建築における設備など 14. 児童・YA 図書館活動における現状と将来 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『児童サービス論』（JLA 図書館情報学テキストシリーズ II 1 1）日本図書館協会、2009年2月刊		出席、数度の課題、小テストで評価する。	

03年度以降	図書及び図書館史	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>電子図書貸出が日本の公共図書館でも始まった。確実に図書の世界は変化している。しかし、図書の歴史の変化は最近のものではなく、すでに3000年前から始まっている。過去を知ることにより未来を見つめ考えていくことがこの科目の目的である。</p> <p>変化する出版資料を扱う図書館もまた変化し続けている。図書館が人類社会に出現したのは紀元前の話である。そのときから司書は仕事をし続けている。世界を変えたのは本といわれるが、その本を保存し提供し続けてきた司書の役割は何か、そしてこれからの未来に向けて司書はどのような役割と仕事をするのかを考えていきたい。</p> <p>本の歴史、出版の歴史、本の流通と西洋社会の変化、近代図書館の歴史と現在、将来などについて学び考えていく。</p> <p>高校までに世界史や日本史、地理の基礎学習をしてきた者は復習し、それを基本に図書あるいは図書館という視点から歴史を見直すことになる。これらの科目を高校までに受講していない者はできるだけ早く歴史・地理の教科書などを読んで基礎知識を身につけておいてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 本・情報と歴史ー世界を変えた本とは？ー 2. 図書館の「本」とは何かー多様な書写材料ー 3. 和書と洋書。出版と保存。 4. 図書館の歴史ー概観ー 5. アレクサンドリア図書館からヨーロッパ中世の図書館へ 6. 十字軍遠征と図書の印刷出版流通 7. 産業革命と市民社会。近代公共図書館の出現 8. 各国(地域)の図書館史 9. アメリカの図書館史 10. 日本の図書館時代前夜 11. 日本の図書館の夜明けー産業博覧会と図書館ー 12. 現代市民社会の公共図書館 13. 図書館の未来 14. 大学図書館貴重書庫見学 (順序は変更する可能性あり) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で資料を配布する。		出席、数度のレポートで評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	資料特論	担当者	山家 篤夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>公共図書館は地域の情報拠点として、「土地の事情及び一般公衆の希望に沿い」（図書館法第3条）、市販・流通する図書他に多様な資料・情報を収集・保存・提供することを期待されている。</p> <p>地方分権の推進において、国は地方自治体に財源と権限委譲すべきだが、地方自治体自身は情報リテラシー、政策立案能力、透明性を高めねばならない。一方、地域コミュニティの崩壊が懸念される中、多くの自治体と市民（団体）は「地域の活性化」「まちおこし」などを掲げ、自然・環境、文化・歴史、福祉・医療、経済などの地域力とコミュニティの再建・創造に取り組んでいる。</p> <p>図書館法は公立図書館が収集・提供すべき資料として「郷土資料」「地方行政資料」「時事に関する資料」をあげ、文科省は近年、地域資料サービスを取り組むべきプランとして強調している。</p> <p>図書館が「地方の時代」の内実を豊かにするために、どのように、何ができるのかを考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館資料の種類 2. 寄贈資料、寄託資料 3. 地域・郷土資料Ⅰ 4. 地域・郷土資料Ⅱ 5. 行政資料 6. 行政文書と公文書 7. 博物館、文書館、議会図書館についてⅠ 8. 博物館、文書館、議会図書館についてⅡ 9. 地域資料サービスにおけるレファレンス 10. 地図資料の活用 11. 新聞雑誌記事データベースの利用と作成 12. 「市政参考図書館」と政策立案支援サービス 13. 「ガバメント・スピーチ」論と図書館 14. 商用データベース情報 15. 講義のまとめ。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		出席状況 50%・テスト 50%	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	コミュニケーション論	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>・講義概要：社会的、文化的コミュニケーションの概念を理解し、コミュニケーション・リテラシー発展・応用を中心に、現代におけるコミュニケーションの特性とその概要について理解する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ：講義概要説明 2. コミュニケーション・モデル：その1 3. コミュニケーション・モデル：その2 4. コミュニケーション・モデル：その3 5. 言語と非言語：その1 6. 言語と非言語：その2 7. 言語と非言語：その3 8. マズローの三角形 9. ジョハリの窓 10. イノベーションの普及過程 11. グループ討議 12. グループ・プレゼンテーション 13. グループ・プレゼンテーション 14. グループ・プレゼンテーション 15. エピローグ：まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献リストを配付する。その中からトピックに関連するページをコピーして使用する。		出席回数／個人レポート／グループ発表とレポート／筆記試験	

03年度以降	図書館特論	担当者	山家 篤夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『ユネスコ公共図書館宣言 1994年』は、「公共図書館は、その利用者があらゆる種類の知識と情報をたやすく入手できるようにする、地域の情報センターである」と規定し、「蔵書およびサービスは、いかなる種類の思想的、政治的あるいは宗教的な検閲にも、また商業的な圧力にも屈してはならない」と述べ、各国政府・自治体にその履行を求めている。わが国の図書館界も、国民の知的自由を保障することが公共図書館の基本的任務であるとする綱領文書「図書館の自由に関する宣言」（日本図書館協会 1979年改訂）を持ち、国民は公共図書館を利用する権利を公平に持つこと、サービス内容は価値中立であり、利用の秘密が保障されるべきことなどの原則を提示している。</p> <p>1960年代後半からの図書館改革・普及によって、わが国の図書館は「宣言」の求めるサービスに努めてきたが、社会的認知は満足のいくレベルに至ってはいない。具体事例を検討し、国際的準則である「図書館の自由」について理解を深める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の図書館概観 I 2. 日本の図書館概観 II 3. 知的自由と公共図書館 概観 4. 蔵書の提供制限 I 差別的表現 5. 蔵書の提供制限 II プライバシー侵害表現 6. 蔵書の提供制限 III 子どもへの提供制限 7. 蔵書の提供制限 IV 政府言論と図書館 8. 蔵書の提供制限 V その他の非難された表現 9. 資料提供に係わる法令 10. 図書館利用記録（プライバシー）の保護 I 11. 図書館利用記録の保護 II 12. 資料提供の対価不徴収（無料原則）について 13. 業務委託、指定管理者制度と職員について 14. 「教育機関」としての図書館 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布する。 『図書館の自由に関する宣言 1979年改訂 解説 第2版』 日本図書館協会 2007刊</p>		出席状況 50%・テスト 50%	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	学校経営と学校図書館	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 学校図書館司書教諭は学校図書館長として、資料管理・情報管理や人事管理など経営者としての役割と仕事が求められる。学校図書館を活用し、総合的な学習など創造的な授業を構築する教員集団の援助活動も求められている。 この科目では、これらの役割について、内容を把握し、その使命を認識し教育現場で実施できるようにすることを学習目的とする。</p> <p>講義概要： 学校図書館は資料センターとしての機能だけでなく、学校教育を基礎として生涯にわたっての自律的な学びの場として学習センターとしての機能がある。さらに視聴覚資料センター、情報センター、教材開発センター、マルチメディア・センターなど多様な面をもっている。学校教育に不可欠と法的に位置づけられている学校図書館の役割と意義について講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校図書館の理念と教育的意義 2. 学校図書館の発展と課題 3. 教育行政と学校図書館 4. 学校図書館の経営①施設管理 5. 学校図書館の経営②資料管理 6. 学校図書館の経営③人事管理 7. 学校図書館の経営④財政管理、評価等 8. 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修 9. 学校図書館メディアの選択と管理 10. 学校図書館メディアの提供と活用 11. 学校図書館活動と教育活動 12. 調べ学習や「総合的な学習」と学校図書館 13. 図書館の相互協力とネットワーク 14. 学校図書館運営計画の策定 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業時に参考文献リストを配布する。		出席+授業参加、レポート2回、試験	

03年度以降	学校図書館メディアの構成	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校図書館メディア・センターでの資料管理についての講義・実習。</p> <p>(1) 資料選択。 どのような資料が授業で活用できるのか、どのような資料がどの年齢層あるいはどのような興味関心を持っている子どもに薦められるのか、などについて選択理論をおさえ、専門職としての資料選択力を身につけることを目的とする。</p> <p>(2) 資料組織化の実習および運用。 学校図書館メディア・センターにはどのような資料を所蔵するのか、それをどのように分類・目録化し、データベース化するのかの基本を学び、実習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館での資料整理の目的と意義 2. 学校図書館メディア資料の種類と特性 3. 資料選択の理論、子どもたちの知的自由 4. 資料選択の実際 5. 日本十進分類法 (NDC) の構造 6. 分類の実際—主題同定作業⇒情報検索語の特定 7. 分類の実際—一般補助表の活用— 8. 分類の実際—学習に応じた分類 9. 日本目録規則 (NCR) の構造 10. 目録化の実際 図書 11. 目録化の実際 図書以外の資料 12. 目録化の電子化 テキスト・ファイルからデータベース化へ 13. 目録と情報検索との相関関係 14. 目録検索の実際 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本図書館研究会編『図書館資料の目録と分類 増訂第4版』, 2008.12, 217p, 定価 1,000 円(税別)		出席、課題(毎回)、小テストなどで評価	

03 年度以降	読書と豊かな人間性	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の概要及び目的:</p> <p>読む・書くという意味での読書をいかに子どもたちを楽しみながら、自分の言葉で自分自身を表現できるようにするかを実際に子どもの本を読みながら、授業として構築していく。講義と実習を組み合わせる。</p> <p>この科目の目標は、各受講者が「読む」(リーディング)と「書く」(リテラシー)という読書力養成を目的とする授業を構築し、学習者に教授できるようになることにある。「読む」「書く」ことを伝える授業案が作成できるようになることを第一段階とする。その基本として司書教諭となる受講者が「読書」していることが出発点となる。</p> <p>大量に読むことではなく、どのように読み解くかを授業で学ぶ。また、どのように伝えていくかを学ぶ。</p> <p>言語教育・リテラシー学習の基本の一つである子どもの読書を推進するため、学校教育のなかで言語教育担当教員のみならず、すべての教員の調整役＝コーディネーターとしての学校図書館司書教諭は重要な役割を担っている。この科目ではその役割をはたすため、どのような読書資料があるのか、そしてその読書資料をどのように言語教育やリテラシー教育に活用するのかを学び、かつ学校内外での調整役としての役割と責任を学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの読書状況 2. 読む・書くという識字力・読書力について考える 3. 子どもの発達心理・読書心理、読書傾向と知的的好奇心 4. 読書資料としての絵本 5. 読書資料としての児童文学 6. 読書資料としてのノンフィクション 7. 読書資料としてのヤングアダルト文学 8. 読書指導のためのプログラム検討 9. 読者育成のための教案作成 10. 「読みて」から「書きて」育成のための教案作成 11. 家庭での読書 12. 地域社会や公共図書館との連携による読書振興 13. 子どもの読書と知的自由 14. 子どもの読書をめぐる法政策 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業開始時に参考資料リストを配布する		出席点+授業参加度、小レポート、試験	

03 年度以降	学習指導と学校図書館	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教科指導のなかで、あるいは「総合的な学習」で、学校図書館と図書館資料、情報メディアを活用して、どのような指導が行えるか、指導教案作成をおこなう。さらに、児童・生徒たちにしらせてもらうために、教師自身が情報探索能力を身につけておくことが求められるので、情報探索活動能力(情報リテラシー)養成を目標とする。グループでの討論を基本に、指導計画作成・発表をおこなう。</p> <p>学習指導における学校図書館のメディア活用についての理解を図る。また、学習指導要領の改訂による「総合的な学習」で、学校図書館の活用が明記されており、その内容にそって、児童・生徒たちの主体的なメディア活用能力の育成を目的とした授業を援助する学校図書館司書教諭の役割を理解し、実践する講義内容とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報探索・情報探求とは？ 2. 学校図書館情報メディア活用能力の育成 3. 学習過程における学校図書館メディア活用の実際 4. 情報探索能力育成 レファレンスと調べ学習 5. 情報探索能力育成/レファレンスツール利用 6. 情報探索能力育成/インターネット利用 7. 情報探索演習 8. 情報探索能力育成のための教育課程。 9. 「総合的な学習」で学校図書館メディアセンターを利用する教育指導案作成。 10. 各教科(社会や英語など)で学校図書館メディアセンターを利用する教育指導案作成 11. 特別活動などでの学校図書館メディアセンター利用の活動企画 12. 学校図書館メディア・センター管理運営年間計画策定 13. 教師集団との協働 14. PTA/PTO や地域社会との協働 15. 教育指導の実際－各受講者の発表・報告－ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
(参考文献) 宅間紘一著『学校図書館を活用する学び方の指導：課題設定から発表まで』全国学校図書館協議会、2005 ほか。授業で資料を配布する。		出席と授業参加、個人で提出するレポートとグループでの報告と発表などで総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報メディアの活用	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】学校教育においてその重要性が再認識され新たな役割を担うことが期待され始めた学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。</p> <p>【概要】まず、現在までの情報メディアの発達と変化を検討し、現代社会が高度情報社会であることを確認する。</p> <p>また、各種情報メディアの特性について概観した後、学校教育の目的や状況に応じてどのようなメディアを選択すべきかを考察する。</p> <p>次に、情報教育を情報の発信・収集・交換という3つの視点から整理し、それぞれの具体的なあり方を実際の情報メディアを用いつつ理解する。</p> <p>そして、情報メディアの取り扱いについて学校において注意すべき点を、有害性／安全性や著作権との関わりから議論し、最後に講義全体のまとめを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：年間予定、授業方法等の注意事項について説明。「情報」について。 2. 高度情報社会と学校教育；情報メディアの特性と選択 3. 学校教育における視聴覚メディアとコンピュータの活用 4. インターネットによる情報検索と発信 (1) 5. インターネットによる情報検索と発信 (2) 6. インターネットによる情報検索と発信 (3) 7. 前半部分のまとめ；情報メディアの活用とは；質問受付 8. オフラインデータベースと情報検索 (1) 9. オフラインデータベースと情報検索 (2) 10. 情報検索以外の情報収集 11. 最新の情報メディア (1) 12. 最新の情報メディア (2) 13. 学校での取り扱いに注意すべき情報 14. 学校図書館メディアと著作権 15. 授業全体のまとめ；質問受付 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜紹介する。授業の性格上、印刷メディアのみでなく電子メディアを多数紹介する。		期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。	

2011年度 教職課程・司書教諭課程 年間行事予定

	行 事	対 象		教室、備考等
1 学 年	1 教職課程ガイダンス	全学部	4月4日(月) 9:30～10:30	E-102:外国語学部 E-101:国際教養学部、経済学部、法学部
	2 教職課程登録(課程費納付)	全学部	4月5日(火)～12日(火)	申請書提出不要
	3 教職課程ガイダンス	全学部	11月15日(火) 12:25～13:10	E-101、教員採用試験中間報告 他
	4 司書・司書教諭課程ガイダンス	全学部	12月1日(木) 12:25～13:10	A-401
2 学 年	5 教職課程、司書教諭課程ガイダンス	全学部	3月29日(火) 12:00～12:45	E-102
	6 教職課程、司書教諭課程登録(課程費納付)	全学部	3月29日(火)～4月12日(火)	新規登録者、申請書提出不要
	7 介護等体験申込みガイダンス	2012年度体験予定者	10月11日(火) 12:25～13:10	E-206、掲示にて詳細連絡
	8 介護等体験希望登録(実習費納付)	2012年度体験予定者	10月12日(水)～11月11日(金)	教務課免許課程係
	9 教職課程ガイダンス	全学部	11月15日(火) 12:25～13:10	E-101、教員採用試験中間報告 他
	10 司書・司書教諭課程ガイダンス	全学部	12月1日(木) 12:25～13:10	A-401
3 学 年	11 教職課程、司書教諭課程ガイダンス	全学部	3月29日(火) 15:00～16:00	E-102
	12 教職課程、司書教諭課程登録(課程費納付)	全学部	3月29日(火)～4月12日(火)	新規登録者、申請書提出不要
	13 介護等体験開始ガイダンス	2011年度体験予定者	4月12日(火) 12:25～13:10	E-101
	14 介護等体験直前ガイダンス	2011年度体験予定者	▽① 4月19日(火) ② 5月17日(火) ③ 6月21日(火) ④ 9月27日(火)* ⑤ 10月18日(火) ⑥ 11月17日(木) の12:25～13:10	E-101(*④のみE-206) ▽体験日前月の回に出席 (8・9月に体験予定の者は③に出席、 1・2月に体験予定の者は⑥に出席)
	15 教育実習校開拓	2012年度教育実習予定者	教職課程ガイダンス以降速やかに	各自が自主的に開拓
	16 「教育実習依頼状交付願」提出	2012年度教育実習予定者	5月13日(金)まで(開拓できた者。 以降に開拓できた場合は随時提出)	免許課程係に提出
	17 「教育実習者登録票」提出			
	18 教育実習依頼状交付	2012年度教育実習予定者	5月23日(月)～	免許課程係で受取
	19 教育実習依頼状を実習校に持参	2012年度教育実習予定者	5月23日(月)以降随時	交付後速やかに
	20 教育実習準備セミナー	2012年度教育実習予定者	8月3日(水) 9:30～12:30 (前半90分:教育実習に備えて、 後半90分:教員採用試験に向けて)	4学年教育実習反省会と同時開催 [E-312:社会・地歴・公民・情報実習者、 E-308,311:外国語実習者]*
	21 「総合演習」体験学習	全学部	9月上旬、3月上旬	2泊3日(詳細は授業内で伝達)
	22 教育実習校斡旋願提出(未開拓者)	2012年度教育実習予定者	9月26日(月)～10月7日(金)	免許課程係に提出
	23 教育実習校斡旋者選考試験	2012年度教育実習予定者	10月13日(木)	教職・司書相談室
	24 教職課程ガイダンス	全学部	11月15日(火) 12:25～13:10	E-101、教員採用試験中間報告 他
25 司書・司書教諭課程ガイダンス	全学部	12月1日(木) 12:25～13:10	A-401	
4 学 年	26 教職課程、司書教諭課程ガイダンス	全学部	3月29日(火) 15:00～15:45	E-101
	27 教職課程、司書教諭課程登録(課程費納付)	全学部	3月29日(火)～4月12日(火)	新規登録者、申請書提出不要
	28 教育実習オリエンテーション	2011年度実習者	①3月29日(火)16:00～17:30 ②3月30日(水)1・2・3・4時限	①E-101 ②E-311 他
	29 教育実習事前指導面接	2011年度実習者	各自の教育実習開始7日前まで	教職相談時間を実施
	30 教育実習指導教員発表	2011年度実習者	5月11日(水)	掲示にて発表
	31 教育実習校との打合せ	2011年度実習者	実習2～3週間前	各自実習校に確認
	32 教育実習(中学・高校にて実施)	2011年度実習者	日程は実習校により異なる	
	33 教育実習反省会	2011年度実習者	8月3日(水) 9:30～12:30 (前半90分:教育実習反省会、 後半90分:教員採用試験に向けて)	秋実習者を含め全員出席 [E-312:社会・地歴・公民・情報実習者、 E-308,311:外国語実習者]*
	34 教育実習日誌提出	2011年度実習者	期日・提出方法は「教育実習論Ⅱ(事後指導)」において指示する	
	35 免許状一括申請説明会(書類配付)	全学部	10月4日(火) 12:25～13:10	E-101、掲示にて詳細連絡
	36 免許状一括申請受付(手数料納付)	全学部	10月5日(水)～11月9日(水)	免許課程係に提出
	37 教職課程、司書教諭課程修了者発表	全学部	2012年3月5日(月)	掲示板
	38 教育実習日誌返却	全学部	2012年3月5日(月)以降	免許課程係にて
	39 司書教諭課程修了証申請受付	司書教諭課程修了者	2012年3月5日(月)～20日(火)	免許課程係
40 免許状授与(一括申請者)	全学部	2012年3月20日(火)	卒業式当日	
41 司書教諭課程修了証授与	司書教諭課程修了者	2013年5月	本人宛郵送	

※E-308:英語学科学籍番号下3ケタ001～250、ドイツ語学科、言語文化学科/E-311:英語学科学籍番号下3ケタ251～、フランス語学科、大学院生、科目等履修生

2011年度 司書課程 年間行事予定

	行 事	学 年		備 考
1	司書課程ガイダンス	2～4年	3月29日(火) 11:20～11:50	E-101
2	司書課程登録	2年、(3・4年)	3月29日(火)～4月12日(火)	新規登録者、申請書提出不要
3	司書・司書教諭課程ガイダンス	全学部	12月1日(木) 12:25～13:10	A-401
4	司書課程修了者発表	4年	2012年3月5日(月)	掲示板
5	司書課程修了証授与	司書課程修了者	2012年3月20日(火)	卒業式当日

2011年3月29日 教務課 免許課程係

シラバス 免許課程

2011年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1663



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	